

## 第7回特別支援教育ワーキンググループ の検討事項

### 検討 項目 ②

**知的障害者である児童生徒に対する教育を行う  
場合における各教科の目標・内容の構造化について**



## 検討項目②

---

**知的障害者である児童生徒に対する教育を行う場合における各教科の目標・内容の  
構造化について**

# 知的障害教育の各教科等の目標及び内容に係る 現状・課題と検討の方向性



## 現状・課題

- 特別支援学校学習指導要領の前回改訂においては、知的障害の各教科について、幼・小・中・高等学校の教育課程との連続性を重視し、以下のような見直しを行った。
  - 知的障害の各教科等の目標・内容について、育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づき整理
  - 中学部に二つの段階を新設、小・中・高等部の各段階に目標を設定し、段階ごとの内容を充実
  - 特に必要がある場合には、個別の指導計画に基づき、相当する学校段階までの小学校等の学習指導要領の各教科の目標・内容の一部を取り入れることができる旨を規定
- こうした規定により、幼・小・中・高等学校との連続性を踏まえながら、知的障害教育を行う特別支援学校における多様な実態の子供たちに応じた教育課程編成の工夫が可能となったが、以下のような課題も指摘されている。
  - 高等部段階の目標・内容に、知的障害のある生徒の実態として、取り扱うことが困難なものが含まれているのではないか
  - 小学部1段階の内容については、発達の段階等を踏まえ、より実態に即した具体的な指導内容が重要となることから、更なる内容の充実が必要ではないか
- また、各教科の指導に当たっては、学習指導要領で示す内容を基に児童生徒の知的障害の状態や経験等に応じて、具体的な指導内容を設定することとなっているが、各教科等における児童生徒の習得状況等の把握が不十分な場合があり、指導計画の作成や単元づくりが画一的、形式的になるなど、実態に即した授業が展開されていない場合があるなど、各教科等の資質・能力の育成を図る主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善は道半ばである。



## 検討の方向性

- 知的障害教育における各教科等については、引き続き、小・中・高等学校の教育課程との連続性を重視して、育成を目指す資質・能力を整理することとした上で、各段階ごとの内容は、前回改訂と同様に、児童生徒の生活年齢を基盤とし、知的能力や適応能力及び概念的な能力等を考慮しながら配列し、より深い理解や学習へと発展させ、学習や生活を質的に高めていくことを原則としてはどうか。
- 他方、学習で得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活の場面で生かすことが難しいという特性を十分に考慮する必要がある中、日常生活場面で用いる機会が少なく抽象性のある言葉や、抽象的な概念の理解を伴う内容などの取扱いについては、知的障害のある生徒の学びの特性を十分に踏まえながら、具体的な指導内容を設定できるように、各教科で取扱う内容を見直すことを検討してはどうか。
- また、小学部の1段階の内容については、知的障害のある児童の実態を踏まえ、例えば、音楽科の「音楽遊び」や算数科の「数量の基礎」などの内容を見直し、充実を図ってはどうか。
- 主体的・対話的で深い学びの実装に向け、小・中学校等における各教科等の高次の資質・能力（統合的な理解、総合的な発揮）の構造化に準じつつ、知的障害の特性や発達の段階等を十分に踏まえた構造化の在り方を次ページ以降のとおり検討してはどうか。

# 知的障害教育の各教科等の目標及び内容に係る 構造化・表形式化、高次の資質・能力の示し方について

## 【構造化・表形式の基本的な考え方】

- 知的障害の各教科における表形式・構造化（並列パターン、並行パターン）については、小・中、高等学校の各教科と同様とする。
- 知的障害の各教科における領域や区分の整理については、小・中、高等学校との学びの連続性を踏まえ、同様の方向性で見直しを図りつつも、知的能力や適応能力及び概念的な能力、発達の段階等を考慮しながら整理された現行学習指導要領も踏まえ、見直しをする。

## 【高次の資質・能力を示すに当たっての基本的な考え方】

- 知的障害の子供たちは、発達期における知的機能の障害が、同一学年であっても、個人差が大きく、学習状況も異なるため、個々の児童生徒の実態等に即して、効果的な指導ができるように、学年ではなく、段階（小学部3段階、中学部2段階、高等部2段階の計7段階）を設け、各段階の目標及び内容を示している。
- 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通じた資質・能力の育成に係る一層の具現化・深化を図るためには、知的障害の子供たちの学習上の特性である、学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活の場面の中で生かすことが難しいことを踏まえ、継続的・長期的、かつ、らせん状に深まるという展望を描いた指導がこれまで以上に重要となる。同時に、外国語活動（小学部）と外国語科の違いや、図画工作と美術など、教科の特質の違いも考慮する必要がある。



## 【高次の資質・能力の示し方】については、

知的障害のある子供の知的能力や適応能力及び概念的な能力、発達の段階等や学習上の特性を考慮しつつ

- 継続的・長期的、かつ、らせん状に学びが深まるという展望を描いた指導に生かすことができるよう、小・中・高等部を通して高次の資質・能力を示すことを基本としつつ、学部段階によって教科、あるいは教科の内容の構成が変わる場合など、教科の特質等を考慮して学部段階ごとに示すことが適している場合には、学部段階ごとに高次の資質・能力を示すことが考えられる。
- 領域、区分については、小・中、高等学校の各教科の見直しの方向性を十分に踏まえるとともに、知的障害の各教科の内容構成に応じて整理することが考えられる。

# 小・中・高等学校での検討を踏まえた知的障害の教科における 構造化・表形式化の方向性

教科	小・中・高の教科の 検討状況		知的障害の教科の 方向性		
	表形式のパターン	高次の資質・能力 の示し方	表形式のパターン	高次の資質・能力 の示し方	
生活	—	—	<b>並列</b>	(小学部のみ)	
国語	並行	学校段階別	並行	学部別	学習の対象とする国語の 広がりやを考慮し、学部ごとに 示してはどうか
社会	並列	学校段階別	並列	学部共通	
算数/数学	並列	学校段階別	並列	学部共通	
理科	並列	学校段階別	並列	学部共通	
音楽	並行	学校段階別	並行	小中と高別	内容の構成の違いを踏まえ、 小中と高で示してはどうか
図工/美術	並行	学校段階別	並行	学部別	図工と美術の違いや、内容 の構成の違いを踏まえ、学 部ごとに示してはどうか
体育/保健体育	並列	学校段階別	並列	(体育) 小と中高別 (保健) 学部共通	「運動遊び」から「運動」へ の変化などを踏まえ、小と 中高で示してはどうか
職業	—	—	並列	学部共通	
家庭	並列	学校段階別	並列	学部共通	
外国語	並行	学校段階別	並行	小と中高別	外国語活動と外国語の違い を踏まえ、小と中高で示 してはどうか

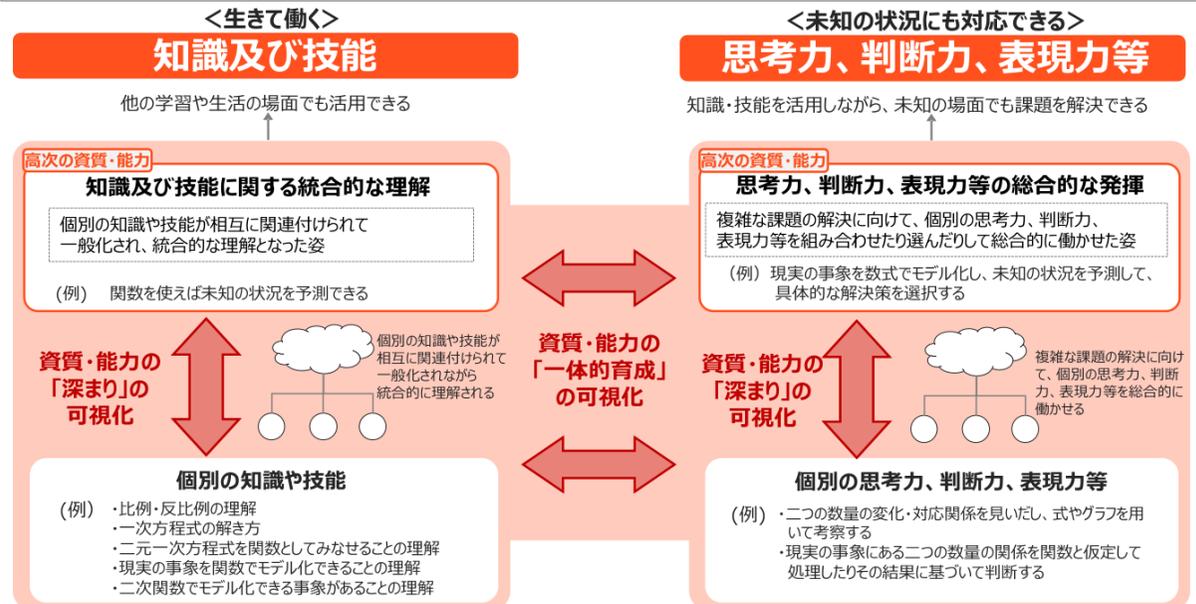
# 特別支援学校の各教科の「資質・能力の深まり」と「資質・能力の一体的育成」の可視化による「深い学び」の具現化

## 【改訂に向けた基本的な考え】

- 今回の改訂における構造化については、諮問で示された学習指導要領の理念や趣旨の浸透は道半ばであることを踏まえ、教育課程企画特別部会における論点整理「次期学習指導要領に向けた基本的な考え方」で示された「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通じた資質・能力の育成について、一層の具現化・深化を図るものがある。
- 知的障害の各教科における構造化については、小・中・高の各教科に準じつつ、知的障害の特性や発達の段階等を踏まえた構造化の在り方を検討する。その際、小学部の「生活科」、中学部の「職業科」、高等部の自立教科については、教科の成り立ちを考慮し検討する。

## 「資質・能力の深まり」と「資質・能力の一体的育成」の可視化による「深い学び」の具現化

- 知識の理解も、それが生きて働くように深く学ぶことが重要。思考力、判断力、表現力等も、社会や生活で直面する未知の状況でも課題解決に繋げていけるよう「質」を高めることが重要（資質・能力の「深まり」）
  - ある程度の知識・技能なしに思考・判断・表現することは難しいし、思考・判断・表現を伴う学習活動なしに、知識の深い理解と技能の確かな定着は難しい（資質・能力の「一体的育成」）
- こうした「資質・能力の深まり」と「資質・能力の一体的育成」を学習指導要領上で可視化することにより、資質・能力の関係性の理解や、それらを一体的に育成するための教師の単元づくりを助け、「深い学び」を授業で具現化しやすくする



※「高次の資質・能力」は、個別の資質・能力が深まることで至る。「統合的な理解」や「総合的な発揮」を指し示すものであり、個別の資質・能力との関係で重要性の軽重を意味するものではない。

# 表形式による構造化パターン①（並列パターン）

資質・能力の一体的育成の可視化

(1) 項目名		
	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	この内容のまとまりを通じて獲得して欲しい統合的な理解等を示す（検討項目④で詳細を検討）	この内容のまとまりにおける知識及び技能を活用しつつ、思考力、判断力、表現力等を総合的に発揮して複雑な課題を解決できる力を示す（検討項目④で詳細を検討）
○学年相当	(小見出し) ・ ・ (小見出し) ・ ・ 右に示す思考・判断・表現の過程で、上に示す統合的な理解を獲得するために必要な要素となる知識及び技能を示す（検討項目⑤で詳細を検討）	(小見出し) ・ ・ (小見出し) ・ ・ 左に示す知識及び技能を活用しながら、上に示す複雑な課題の解決をする上で必要な要素となる思考力、判断力、表現力等を示す（検討項目⑤で詳細を検討）
○学年相当	(小見出し) ・ ・ (小見出し) ・ ・	知識及び技能に対応する思考力、判断力、表現力等が共通する場合など、分けて示す必要がない場合は、可能な限り繰り返しを避け、セルを統合して示すなど簡素な示し方となるよう工夫する。
○学年相当	(小見出し) ・ ・ (小見出し) ・ ・	
(内容の取扱い)		

想定する指導学年を明示する場合は、「○学年相当」という形で示す。  
 (示さない場合や、複数学年毎に示す場合、単学年毎に示す場合など柔軟に対応)

資質・能力の深まりの可視化

※表の読み方を示す柱書きや見出し、各項目の番号の示し方等の平仄については告示の検討に際して技術的に検討

# 表形式による構造化パターン② (並行パターン)

資質・能力の深まりの可視化

		○学年相当	○学年相当	○学年相当
<b>思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮</b>  知識・技能を活用しつつ、思考力・判断力・表現力等を総合的に発揮して複雑な課題を解決できる力を示す（検討項目④で詳細を検討）	(1) 項目名	(小見出し)	(小見出し)	(小見出し)
	(2) 項目名	(小見出し)	(小見出し)	(小見出し)
	(3) 項目名	(小見出し)	(小見出し)	(小見出し)
<b>知識及び技能に関する統合的な理解</b>  この内容のまとまりを通じて獲得して欲しい統合的な理解等を示す（検討項目④で詳細を検討）	(1) 項目名	(小見出し)	(小見出し)	(小見出し)
	(2) 項目名	(小見出し)	(小見出し)	(小見出し)
	(3) 項目名	(小見出し)	(小見出し)	(小見出し)
	(4) 項目名	(小見出し)	(小見出し)	(小見出し)
<b>(内容の取扱い)</b>				

想定する指導学年を明示する場合は、「○学年相当」という形で示す。(示さない場合や、複数学年毎に示す場合、単学年毎に示す場合など柔軟に対応)

下に示す知識及び技能を活用しながら、左に示す複雑な課題の解決をする上で必要な要素となる思考力、判断力、表現力等を示す。(検討項目⑤で詳細を検討)

左に示す統合的な理解を獲得し、上に示す思考・判断・表現を豊かにするために必要となる知識及び技能を示す(検討項目⑤で詳細を検討)

学年相当に分けて示す必要がない場合は、可能な限り繰り返しを避け、セルを統合して示すなど簡素な示し方となるよう工夫する。

資質・能力の一体的育成の可視化

※表の読み方を示す柱書きや、見出しや各項目の番号の示し方等の平仄については告示の検討に際して技術的に検討

～目標及び内容の構造化の方向性～

# 国語

### 現行の記載

#### 【小学部学習指導要領】

##### ◎国語科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で理解し表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

##### 知識及び技能

日常生活に必要な国語について、その特質を理解し使うことができるようにする。

##### 思考力、判断力、表現力等

日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思考力や想像力を養う。

##### 学びに向かう力・人間性等

言葉で伝え合うよさを感じるとともに、言語感覚を養い、国語を大切にしているその能力の向上を図る態度を養う。

##### ◎言葉による「見方・考え方」

対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着眼して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること

### 改善案（現行ベースのたたき台）

✓ 以下は、現行の記載を基に総則・評価特別部会の方針を当てはめた「たたき台」であり、修正すべき点がないか検討する必要がある。

##### ◎国語科の目標

国語で理解し、考え、表現する資質・能力について、聞くこと・話すこと、書くこと、読むことを通して次のとおり育成することを目指す。

##### 知識及び技能

日常生活に必要な国語の特質を理解し使うとともに、我が国の言語文化に触れることができるようにする。

##### 思考力、判断力、表現力等

国語で順序立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における他者との関わりの中で、伝え合う力を高める。

##### 学びに向かう力・人間性等

① 考えたり感じたりしたことを進んで表現し、伝え合うよさを感じながら、学びの質を高めようとする態度を養う。  
② 言語感覚を育み、我が国の言語文化に触れ、国語を大切にする態度を養う。

※「学びに向かう力、人間性等」の4要素

- ① 初発の思考や行動を起こす力・好奇心、② 学びの主體的な調整
- ③ 他者との対話や協働、④ 学びを方向付ける人間性

##### ◎言葉による「見方・考え方」

見方・考え方は校種を超えて共通

自分や他者の言葉を、意味や働き、使い方や表現の意図に着目して多面的・多角的に吟味し、多様な立場や考えを理解して、丁寧に言葉を選び、よりよく伝え合うこと



## （国語WG）資質・能力の構造化等に関連する検討のポイント

### 1. 目標・内容の構造化等のポイントについて

- 国語科は、思考力・判断力・表現力等の系統性が明確であり、知識及び技能が全体として思考力・判断力・表現力等の深まりを助けることを明確にするため、**「並行」パターンでの表形式化を検討**
- 短文でのやりとりが中心となるSNSなどに日常的に接する中で、まとまりのある思考を深めたり表現を工夫したりする経験が不足しており、**目的や場面に応じて、自分の思いや考えに適した言葉を用いて表現することなどに課題**。「何のために言葉を使うのか」という視点を明確にし、学習活動の目的を意識できるようにするため、**思考力・判断力・表現力等の内容については、従来の「話す・聞く／書く／読む」といった領域のみならず、「情報の伝達／他者の説得／情報の獲得・他者の主張の吟味／合意形成」といった「言葉を使う目的（仮称）」（※）を基に整理して示す方向で検討**

（※「言葉を使う目的（仮称）」の呼称や、具体的な分類の方法等は、引き続きWGにおいて検討予定。）

### 2. その他の重要論点について

- **学習の基盤となる資質・能力である「言語能力」の在り方**について、AIによる大量の言語生成が可能となり、それをSNS等で容易に発信可能な時代だからこそ、自らの意思や考えを形成・表現することや、他者の経験・感情を理解することといった**人間ならではの言語能力を重視する観点から再整理**。また教育課程全体を通じた言語能力育成の一層の推進のため、国語科と各教科等での言語能力育成の役割分担について整理
- 今後、WGにおいて、**高校国語科の科目の在り方について検討予定**（※選択科目の資質・能力の構造化の素案については、今後示す予定）

## 高次の資質能力を含む全体の構成イメージ（中）

### 【論点1-1】高次の資質・能力の示し方

高次の資質・能力を、言葉を使う目的（仮称）や事項のまとめり（仮称）、資質・能力の関係性を整理して示すこと、思考・判断・表現、知識・技能における高次の資質・能力の示し方について、ご議論いただきたい

#### 目標等

（柱書）（資質・能力の趣旨）について、（学習過程）を通して、次のとおり育成することを目指す

（資質・能力の柱ごとの目標）

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
--------	--------------	--------------

（見方・考え方）（対象）を（教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え、（教科固有の考え方や判断の仕方）すること。

全領域  
 共通の  
 内容

#### 内容 A 話すこと・聞くこと

思・判・表	高次の資質・能力	言葉を使う目的（仮称）	資質・能力（概略）
	〇〇できる	〇〇〇〇	〇〇〇〇
	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇
	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇
	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇

領域ごと  
 に示す

#### 内容 B 書くこと

思・判・表	〇〇できる	〇〇〇〇	〇〇〇〇
①知・技	〇〇できる	〇〇〇〇	〇〇〇〇

原則、領域ごと  
 に共通の内容で  
 示す

#### 内容 C 読むこと

思・判・表	〇〇できる	〇〇〇〇	〇〇〇〇
①知・技	〇〇できる	〇〇〇〇	〇〇〇〇
②知・技	〇〇できる	〇〇〇〇	〇〇〇〇

全領域  
 共通の  
 内容

主に、各領域の学習で必要となる知識及び技能を活用して、思考・判断・表現する

主に、基盤となる文化的な知識や態度、教養として深める

# 国語の構成等のイメージ（小学部の例）

（特別支援学校小学部・中学部学習指導要領及び特別支援学校高等部学習指導要領）

## 現状

### 知識及び技能

内容 (1)言葉の特徴や使い方に関する事項

内容 (2)情報の使い方に関する事項※

内容 (3)我が国の言語文化に関する事項

※(2)は、小学部3段階から設定

### 思考力、判断力、表現力等

内容 A聞くこと・話すこと

内容 B書くこと

内容 C読むこと

## 改善イメージ

### 内容 A聞くこと・話すこと

思・判・表	総合的な発揮	言葉を使う目的（仮称）	資質・能力（概略）
	…	…	…
		…	…
①知識・技能	統合的な理解	事項のまとめり（仮称）	資質・能力（概略）
	…	…	…
		…	…

### 内容 B書くこと

思・判・表	…	…	…
①知・技	…	…	…

### 内容 C読むこと

思・判・表	…	…	…
①知・技	…	…	…
②知・技	…	…	…

# 内容の構造化の案 / 国語 / 並行パターン

- 国語科は思考力・判断力・表現力等の系統性が明確であり、知識及び技能が全体として思考力・判断力等の深まりを助けることを明確にするとともに、小・中・高等学校との連続性を勘案し、「並行パターン」としてはどうか。
- 児童生徒の実態に応じた言語活動を通して、生活に必要な国語を身に付けることが大切であることから、「何のために言葉を使うのか」という視点を明確にし、学習活動の目的を意識できるよう、思考力・判断力・表現力等の内容については、従来の「聞くこと・話すこと／書くこと／読むこと」の領域に加えて、「言葉を使う目的（仮称）」を基に整理してはどうか。

## 【小学部 聞くこと・話すことの例】

		高次の資質・能力		言葉を使う目的 (仮称)	内容項目例				
		総合的な発揮			1 段階	2 段階	3 段階		
小学部	聞くこと・話すこと	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	情報の伝達	規定省略	規定省略	規定省略		
			…	他者の説得	規定省略	規定省略	規定省略		
			…	情報の獲得 他者の主張の吟味	規定省略	規定省略	規定省略		
			…	合意形成	規定省略	規定省略	規定省略		
	知識及び技能	聞くこと・話すこと	①各領域の学習の過程で生かし深める側面	総合的な理解	事項のまとめり (仮称)	1 段階	2 段階	3 段階	
				…	言葉の特徴や使い方に関する事項	規定省略	規定省略	規定省略	
				…	情報の扱い方に関する事項	規定省略	規定省略	規定省略	
		知識及び技能	聞くこと・話すこと	②各領域の学習を支える文化的な知識や態度の醸成として深める側面	総合的な理解	事項のまとめり (仮称)	内容項目例		
					…	我が国の言語文化に関する事項	規定省略	規定省略	規定省略
					…				

- 国語科では、知的障害のある児童生徒の生活に必要な国語を身に付けることが大切である。学部が上がるに連れて、児童生徒の生活が広がることを踏まえ、小学部では日常生活、中学部では日常生活や社会生活、高等部では社会生活に必要な国語へと、学習の対象が広がり、深まる。こうした広がりや深まりを考慮し、高次の資質・能力についても、学部ごとに示してはどうか。なお、「思考力、判断力、表現力の総合的な発揮」及び「知識及び技能の統合的な理解」は、小、中、高等学校との連続性を踏まえ、以下のとおり、示してはどうか

【思考力、判断力、表現力等】

- 領域ごと（聞くこと・話すこと／書くこと／読むこと）に示してはどうか。

【知識及び技能】

- ①領域ごとに共通の内容と、②全領域で共通の内容で示してはどうか。

## 【小学部の例】

		高次の資質・能力		聞くこと・話すこと	書くこと	読むこと
小学部	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮		目的に応じて、聞き方・話し方を工夫することにより、考えや思いをよりよく伝えとともに、他者とのやり取りを通じて自分の考えを広げ深めることができる。	目的に応じて、書き方を工夫することにより、考えや思いをよりよく伝えることができる。	目的に応じて、読み方を工夫することにより、自分の考えを広げ深めることができる。
	知識及び技能	統合的な理解	①各領域の学習の過程で生かし深める側面	日常生活に必要となる言葉の特質や使い方等を身に付け、目的に応じて使うことにより、言葉には事物の内容や考え、思いを表す働きがあることを理解している。	日常生活に必要となる言葉の特質や使い方等を身に付け、目的に応じて使うことにより、言葉には事物の内容や考え、思いを表す働きがあることを理解している。（再掲）	日常生活に必要となる言葉の特質や使い方等を身に付け、目的に応じて使うことにより、言葉には事物の内容や考え、思いを表す働きがあることを理解している。（再掲）
			②各領域の学習を支え文化的な知識や態度、教養として深める側面	幅広く多様な言葉に触れながら我が国の言語文化のもつよさを知ることが自己の形成、日常生活の向上、文化の継承と創造につながることを理解している。		

～目標及び内容の構造化の方向性～

**社会**

### 現行の記載

#### 【中学部学習指導要領】

##### ◎ 社会科の目標

社会的な見方・考え方を働かせ、社会的な事象について関心を持ち、具体的に考えたり関連付けたりする活動を通して、自立し生活を豊かにするとともに、平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや役割、地域や我が国の歴史や伝統と文化及び外国の様子について、具体的な活動や体験を通して理解するとともに、経験したことと関連付けて、調べまとめる技能を身に付けるようにする。	社会的な事象について、自分の生活と結び付けて具体的に考え、社会との関わりの中で、選択・判断したことを適切に表現する力を養う。	社会に主体的に関わろうとする態度を養い、地域社会の一員として人々と共に生きていくことの大切さについての自覚を養う。

##### ◎ 社会的な「見方・考え方」

社会的な事象の意味や意義、特色や相互の関連を考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする際の「視点や方法（考え方）」

### 改善案（現行ベースのたたき台）

✓ 以下は、現行の記載を基に総則・評価特別部会の方針を当てはめた「たたき台」であり、修正すべき点がないか検討する必要がある。

##### ◎ 社会科の目標

よりよい社会の形成に向けて主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや役割、地域や我が国の歴史や伝統と文化及び外国の様子に関する学習を通して社会生活に関する概念について理解する。</li> <li>・具体的な活動や体験を通して確かな情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的な事象について、自分の生活と結び付けて具体的に考える力を養う。</li> <li>・社会との関わりの中で、選択・判断する力を養う。</li> <li>・考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。</li> <li>・自らの考えを問い返し、捉え直す力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的な事象について、よりよい社会をを考え見直しを立てたり、自らの学び振り返りながら主体的かつ協働的に問題解決しようとする態度を養う。</li> <li>・多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員として人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。</li> </ul>

※「学びに向かう力、人間性等」の4要素

- ①初発の思考や行動を起こす力・好奇心、②学びの主体的な調整
- ③他者との対話や協働、④学びを方向付ける人間性

##### ◎ 社会的な「見方・考え方」

見方・考え方は校種を超えて共通

社会的な事象やその言説を、地域の空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

- ・ 目標は、中学部、高等部ごとに示すとともに、各段階で目標を示している。
- ・ 内容は、中学部（2段階）、高等部（2段階）の4段階で示し、中学部から高等部までの系統性を踏まえ、領域で整理し段階的に示している。
- ・ 高次の資質・能力は、6年間を通して領域別に示してはどうか。

中学部		ア 社会参加と きまり		イ 公共施設と 制度		ウ 地域の安全		エ 産業と生活		オ 我が国の地理や 歴史		カ 外国の様子	
				イ 公共施設の役 割と制度		ウ 我が国の国土の 自然環境と国民生活				オ 我が国の国土の様 子と国民生活、歴史			
高等部		統合的な理 解	総合的な 発揮	統合的な 理解	総合的な 発揮	統合的な 理解	総合的な 発揮	統合的な 理解	総合的な 発揮	統合的な 理解	総合的な 発揮	統合的な 理解	総合的な 発揮
中学部	段階	1段階		1段階		1段階		1段階		1段階		1段階	
		2段階		2段階		2段階		2段階		2段階		2段階	
高等部	段階	1段階		1段階		1段階		1段階		1段階		1段階	
		2段階		2段階		2段階		2段階		2段階		2段階	

※以降ウ～カも同様

		ア 社会参加ときまり		イ 公共施設と制度	
				イ 公共施設の役割と制度	
高次の 資質・能力		知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
		・円滑な社会生活を送るために、家庭や学校、地域、国のきまりを守ることを知り、集団の中での役割と責任、協力することの大切さを理解する。	・位置や空間的な広がり、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、総合的に活用することで、社会参加に必要な決まりの意義と集団生活の中での自分の役割と責任について考え、表現することができる。	・公共施設や公共物、生活に関係の深い制度や将来の生活における制度は、生活を支えるための重要な機能であること、それらを活用することで快適な社会生活につながることを理解する。	・位置や空間的な広がり、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、総合的に活用することで、公共施設や公共物、生活に関係の深い制度や将来の生活における制度の活用と自分との関わりについて考え、表現することができる。
中学部	1段階	規定省略	規定省略	規定省略	規定省略
	2段階	規定省略	規定省略	規定省略	規定省略
高等部	1段階	規定省略	規定省略	規定省略	規定省略
	2段階	規定省略	規定省略	規定省略	規定省略

～目標及び内容の構造化の方向性～

# 算数・数学

### 現行の記載

#### 【小学部学習指導要領】

##### ◎算数科の目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などに気付き理解するとともに、日常の事象を数量や図形に注目して処理する技能を身に付けるようにする。	日常の事象の中から数量や図形を直感的に捉える力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などに気付き感じ取る力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり柔軟に表したりする力を養う。	数学的活動の楽しさに気付き、関心や興味をもち、学習したことを結び付けてよりよく問題を解決しようとする態度、算数で学んだことを学習や生活に活用しようとする態度を養う。

##### ◎数学的な「見方・考え方」

事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に道筋を立てて考え、総合的・発展的に考えること

### 改善案（現行ベースのたたき台）

✓以下は、現行の記載を基に総則・評価特別部会の方針を当てはめた「たたき台」であり、修正すべき点がないか検討する必要がある。

##### ◎算数科の目標

事象を数学的に考える資質・能力について、数学的活動を通して、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などに気付き理解するとともに、日常の事象を数量や図形に注目して処理する技能を身に付けるようにする。	日常の事象の中から数量や図形を直感的に捉える力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などに気付き感じ取る力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり柔軟に表したりする力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事象に知的好奇心や目的意識をもって問題を見だし、数学を活用しようとする態度を養う。</li> <li>○他者と数学的論拠に基づいて協働し、問題解決を進めようとする態度を養う。</li> <li>○問題発見・解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。</li> <li>○数学の社会的有用性、美しさ、楽しさなどを感じる感性、想像力、直観力などの創造性の基礎を育む。</li> </ul>

※「学びに向かう力、人間性等」の4要素

- ①初発の思考や行動を起こす力・好奇心、②学びの主体的な調整
- ③他者との対話や協働、④学びを方向付ける人間性

##### ◎数学的な「見方・考え方」

見方・考え方は校種を超えて共通

事象や言説を数理の視点から捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的、批判的に考察すること。

# 【議題3】算数・数学科の領域等の分野への再編につ

令和7年12月22日  
算数・数学WG（第4回）  
配付資料

- 指導の系統性確保の観点から、「小学校－中学校－高等学校・数学Ⅰ」について、**現行の領域（小中）・項目（高）を6つの「分野」に再編し、名称を統一**してはどうか。

（現行）

	領域（小中）・項目（高）				
小学校	A 数と計算	B 図形	C 測定 (第1～3学年)	C 変化と関係 (第4～6学年)	D データの活用
中学校	A 数と式	B 図形		C 関数	D データの活用
高等学校 数学Ⅰ	(1) 数と式	(2) 図形と計量		(3) 二次関数	(4) データの分析

（改訂案）

	分野					
小学校	↓ ↓				↓	↓
中学校	↓ ↓			データと確からしさ	↓	↓
高等学校 数学Ⅰ	数と式	図形	変化と関係	データと確からしさ	論証	社会を読み解く数学

↓：学習内容として明記はされていないが、学習の萌芽や継続を表している

※論証については論証指導を特に強化する観点からも独立の分野とするもの。他分野の学習内容では論証指導を行わない、という趣旨ではない。

議題1  
議題2  
議題3

# 【議題3】算数・数学科の高次の資質・能力（案）

「数と式」分

令和7年12月22日  
算数・数学WG（第4回）  
配付資料

※学習内容については現行学習指導要領をベースとしたものであり、今後の議論で見直しがありうる。  
※本表は検討の便宜上の表現であり、実際には、区分を横断する学習内容も存在することに留意。

区分	数・量		式	
	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
小学校	<p>高次の資質・能力</p> <p>○数は、量の大きさや順序を表し、大小比較したり、計算したりできることを理解する。 ○数の範囲を拡張することは、それまでの数と同じ仕組みの表現や計算として扱い、より広範な事象を考察できることを理解する。 ○量は、ものの大きさを捉え、単位を基に測定して数に表したり、比べたりできることを理解する。</p>	<p>○数を構成する単位や十進位取り記数法の仕組みに着目し、数の大きさの比べ方や数え方、表し方を考察し、大小比較や計算などに生かす。 ○量の特徴に着目し、目的に応じて適切な単位や計器を選んで測定し、量の大きさを数に表したり、比べたりする。</p>	<p>式は、数量の関係を簡潔・明瞭かつ一般的に表し、計算できることを理解する。</p>	<p>事象における数量の関係に着目し、式の表し方について考察し、計算して結果を得るとともに、得られた結果を意味づけたり活用したりする。</p>
	<p>学習内容</p> <p>知・技</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数の構成と表し方</li> <li>整数、小数、分数</li> <li>概数、四捨五入</li> <li>量と測定についての理解の基礎【再掲】</li> <li>長さの単位と測定【再掲】</li> <li>かさの単位と測定</li> <li>重さの単位と測定</li> <li>時刻と時間</li> </ul>	<p>思・判・表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数のまとまりや十進位取り記数法の仕組みに着目し、数の大きさの比べ方や数え方、表し方に関する問題として表現すること。</li> <li>量の特徴に着目し、量の大きさを表したり、比べたりして、考察の対象とすること。</li> </ul>	<p>知・技</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>加法が用いられる式とその意味</li> <li>減法が用いられる式とその意味</li> <li>乗法が用いられる式とその意味</li> <li>除法が用いられる式とその意味</li> <li>四則を混合した式や（ ）を用いた式</li> <li>公式</li> <li>□、△ などを用いた式</li> <li>文字式</li> </ul>	<p>思・判・表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数量の関係に着目し、式に表して、考察の対象とすること。</li> <li>式の表し方について考察すること。</li> <li>考察した式を事象に即して解釈し、類似の事象にも活用すること。</li> </ul>
中学校	<p>高次の資質・能力</p> <p>○数は、量の大きさ、順序を表し、大小比較したり、計算したりできることを理解する。 ○数の範囲を拡張することは、それまでの数と同じ仕組みの表現や計算として扱えるようにし、より広範な事象を考察できることを理解する。</p>	<p>数の範囲に着目し、数の表し方や大きさの比べ方を考察し、大小比較や計算などに生かす。</p>	<p>文字や文字式は、数量や数量の関係を簡潔・明瞭かつ一般的に表し、数量や数量の関係について説明できることを理解する。</p>	<p>事象における数量や数量の関係に着目し、文字式で表し、計算して結果を得るとともに、得られた結果を意味づけたり活用したりする。</p>
	<p>学習内容</p> <p>知・技</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>正負の数</li> <li>平方根</li> </ul>	<p>思・判・表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数の範囲に着目し、数の表し方や大きさの比べ方に関する問題として表現すること。</li> <li>数の表し方や大きさの比べ方を考察し、数の範囲を拡張すること。</li> <li>拡張した数を具体的な事象に即して解釈し、類似の事象にも活用すること。</li> <li>整数の性質について考察すること。</li> </ul>	<p>知・技</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文字を用いることの必要性和意味</li> <li>文字式</li> </ul>	<p>思・判・表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数量や数量の関係を文字式で表して考察の対象とすること。</li> <li>文字式を目的に合った形に変形し、事象を論理的に考察すること。</li> <li>数や数量に関して考察した結果を具体的な事象に即して解釈し、類似の事象にも活用すること。</li> </ul>

本資料では、高次の資質能力を検討するための便宜上、現行の学習内容を箇条書きで記載しているが、学習指導要領上で何をどのように規定するかについては、全体の方針が明確になってから年明け以降に検討

高校は次頁へ

議題1  
議題2  
議題3

# 領域（区分等）の整理

## ●「領域」の「分野」への再編

学部	段階	領域					
小学部	1段階	A 数量の基礎	B 数と計算	C 図形	D 測定	—	—
	2段階	—	A 数と計算	B 図形	C 測定	—	D データの活用
	3段階	—	A 数と計算	B 図形	C 測定	—	D データの活用
中学部	1段階	—	A 数と計算	B 図形	C 測定	—	D データの活用
	2段階	—	A 数と計算	B 図形	—	C 変化と関係	D データの活用
高等部	1段階	—	A 数と計算	B 図形	—	C 変化と関係	D データの活用
	2段階	—	A 数と計算	B 図形	—	C 変化と関係	D データの活用

学部	分野						
小学部	1段階のみ			—			
中学部		数と式	図形	変化と関係	データと確からしさ	論証	社会を読み解く数学
高等部							

# 領域（区分等）の整理

## ●「分野」を「区分」へ分類

### 小学校・中学校・高等学校

分野	数と式				図形		変化と関係		データと確からしさ			論証	社会を読み解く数学	
	数・量	式	計算	方程式不等式	図形の性質	図形の計量	割合と比	関数	場合の数と確率	記述統計	推測統計	論証	社会を読み解く数学	
小学校	○	○	○	↓	○	○	○ 第4～6学年	○	○	○	○	↓	↓	↓
中学校	○	○	○	○	○	○	↓	○	○	○	○	○	○	↓
高等学校 数学Ⅰ	↓	○	○	○	↓	○	↓	○	↓	○	○	○	○	○

- 学びの連続性の観点から、知的障害小学部算数科、中学部及び高等部数学科の学習内容が小学校段階の学習内容で構成されていることを踏まえ、小・中・高等学校の改定案に準じて、領域を4つの分野・10の区分に整理する。
- 「数量の基礎」は、現行の学習指導要領解説において、「数と計算」「図形」「測定」「データの活用」のそれぞれの学習内容を理解するうえで、基盤となる素地的な学習活動としてのねらいがあることが明記されており、独自の分野として位置付けるかについて、合わせてその際の名称についても検討してはどうか。

### 知的障害特別支援学校

分野	数量の基礎	数と式			図形		変化と関係		データと確からしさ	
	数量の基礎	数・量	式	計算	図形の性質	図形の計量	割合と比	関数	場合の数と確率	記述統計
小学部	○	○	○	○	○	○	↓	↓	↓	○
中学部	↓	○	○	○	○	○	○	○	↓	○
高等部	↓	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○：学習内容の規定あり    ↓：学習内容として明記はされていないが、学習の萌芽や継続を表している

※区分については、現行の学習指導要領の学習内容をベースとしたものであり、今後の議論で見直しがありうる。 ※分野・区分を横断する学習内容も存在

# 表形式による構造化/算数科/並列パターン

- 第3回、第4回教育課程部会 算数・数学ワーキンググループで提案のとおり、知的障害小学部算数科、中学部及び高等部数学科においても、「並列パターン」としてはどうか。  
 <理由> 算数・数学は知識・技能の内容の系統性が明確であり、内容のまとまりに対応した固有の思考力・判断力・表現力が想定しやすい。(第4回算数・数学ワーキンググループ資料より)
- 知的障害小学部算数科、中学部及び高等部数学科の内容は、小学校とのつながりに留意して構成されていることや、教科の系統性を踏まえ、小学部、中学部、高等部で統一した高次の資質・能力を作成してはどうか。
- その際、小学校算数科における高次の資質・能力を踏まえ作成し、学部段階ごとの留意点等については、各学部段階の学習指導要領解説で丁寧に説明してはどうか。

分野	数量の基礎(仮)		数と式				図形				変化と関係				データと確からしさ					
	数量の基礎(仮)		数・量		式		計算		図形の性質		図形の計量		割合と比		関数		場合の数と確率		記述統計	
区分	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	小学部	1段階		1段階		1段階		1段階												
2段階			2段階		2段階		2段階													
3段階			3段階		3段階		3段階													
中学部	1段階		1段階		1段階		1段階		1段階		1段階		1段階		1段階		1段階		1段階	
	2段階		2段階		2段階		2段階		2段階		2段階		2段階		2段階		2段階		2段階	
高等部	1段階		1段階		1段階		1段階		1段階		1段階		1段階		1段階		1段階		1段階	
	2段階		2段階		2段階		2段階		2段階		2段階		2段階		2段階		2段階		2段階	

# 高次の資質・能力の案/算数科/学部共通-区分別 例) 数と式分野

※図形分野、変化と関係分野、データと確からしさ分野も同様

区分	数・量		式		計算	
高次の資質・能力	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	<p>○数は、量の大きさや順序を表し、大小比較したり、計算したりできることを理解する。</p> <p>○数の範囲を拡張することは、それまでの数と同じ仕組みの表現や計算として扱い、より広範な事象を考察できることを理解する。</p> <p>○量は、ものの大きさを捉え、単位を基に測定して数に表したり、比べたりできることを理解する。</p>	<p>○数を構成する単位や十進位取り記数法の仕組みに着目し、数の大きさの比べ方や数え方、表し方を考察し、大小比較や計算などに生かす。</p> <p>○量の特徴に着目し、目的に応じて適切な単位や計器を選んで測定し、量の大きさを数に表したり、比べたりする。</p>	<p>○式は、数量の関係を簡潔・明瞭かつ一般的に表し、数量の関係について説明できることを理解する。</p>	<p>○事象における数量の関係に着目し、式の表し方について考察し、計算して結果を得るとともに、得られた結果を意味づけたり活用したりする。</p>	<p>○計算は、数を構成する単位や十進位取り記数法、計算に関して成り立つ性質に基づいており、一定の手順にしたがって数量を正しく処理できることを理解する。</p>	<p>○数を構成する単位や十進位取り記数法、計算に関して成り立つ性質に着目し、計算の仕方について考察し、問題の解決に生かす。</p>
学習内容	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	規定省略	規定省略	規定省略	規定省略	規定省略	規定省略

※小学校算数科における高次の資質・能力を踏まえ作成（補足資料5の数・量、式の区分を参照）

～目標及び内容の構造化の方向性～

# 理科

### 現行の記載

#### 【中学部学習指導要領】

##### ◎理科の目標

自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

##### 知識及び技能

自然の事物・現象についての基本的な理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。

##### 思考力、判断力、表現力等

観察、実験などを行い、疑問をもつ力と予想や仮説を立てる力を養う。

##### 学びに向かう力・人間性等

自然を愛する心情を養うとともに、学んだことを主体的に日常生活や社会生活などに生かそうとする態度を養う。

##### ◎解説・理科の「見方・考え方」

身近な自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること。

### 改善案（現行ベースのたたき台）

- 以下は、現行の記載を基に総則・評価特別部会の方針を当てはめた「たたき台」であり、修正すべき点がないか検討する必要がある。

##### ◎理科の目標

自然の事物・現象を科学的に探究する資質・能力について、見通しをもって観察や実験を行うことなどを通して、次のとおり育成することを旨とする。

##### 知識及び技能

自然の事物・現象についての基本的な理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。

##### 思考力、判断力、表現力等

観察・実験などを行い、疑問をもつ力と予想や仮説を立てる力を養う。

##### 学びに向かう力・人間性等

自然の事物・現象に主体的に関わり、他者の気付きや考えを知ったり比べたりしながら、科学的に探究しようとする態度と生命を尊重しようとする心情や自然環境の調和に寄与しようとする心情を養う。

※「学びに向かう力、人間性等」の4要素

- ①初発の思考や行動を起こす力・好奇心、②学びの主体的な調整
- ③他者との対話や協働、④学びを方向付ける人間性

##### ◎理科の「見方・考え方」

見方・考え方は校種を超えて共通

自然や社会の事象・言説を、自然科学的な視点から捉え、観察・実験の結果や科学的知見などに基づいて、客観的、論理的、批判的に考察すること。

●系統性確保の観点から、**現行の2分野4領域を4分野に再編**してはどうか。

議題1  
議題2

（現行）

分野	（中学校）第1分野		（中学校）第2分野	
領域	エネルギー	粒子	生命	地球
小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>風とゴムの力の働き</li> <li>磁石の性質</li> <li>電流の働き</li> <li>電流が作る磁力</li> <li>電氣の利用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物と重さ</li> <li>金属，水，空気と温度</li> <li>物の溶け方</li> <li>水溶液の性質</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りの生物</li> <li>人の体のつくりと運動</li> <li>植物の発芽，成長，結実</li> <li>動物の誕生</li> <li>植物の養分と水の通り道</li> <li>生物と環境</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>太陽と地面の様子</li> <li>雨水の行方と地面の様子</li> <li>天気の様子</li> <li>流れる水の働きと土地の変化</li> <li>天気の変化</li> <li>月と太陽</li> </ul>
中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な物理現象</li> <li>電流とその利用</li> <li>運動とエネルギー</li> <li>科学技術と人間【分野横断】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りの物質</li> <li>化学変化と原子・分子</li> <li>化学変化とイオン</li> <li>科学技術と人間【分野横断】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな生物とその共通点</li> <li>生物の体のつくりと働き</li> <li>生命の連続性</li> <li>科学技術と人間【分野横断】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大地の成り立ちと変化</li> <li>気象とその変化</li> <li>地球と宇宙</li> <li>科学技術と人間【分野横断】</li> </ul>
高等学校	<b>《物理基礎》</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>物体の運動とエネルギー</li> <li>様々な物理現象とエネルギーの利用</li> </ul>	<b>《化学基礎》</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>化学と人間生活</li> <li>物質の構成</li> <li>物質の変化とその利用</li> </ul>	<b>《生物基礎》</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>生物の特徴</li> <li>ヒトの体の調節</li> <li>生物の多様性と生態系</li> </ul>	<b>《地学基礎》</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>地球のすがた</li> <li>変動する地球</li> </ul>
	<b>《物理》</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な運動</li> <li>波</li> <li>電氣と磁氣</li> <li>原子</li> </ul>	<b>《化学》</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>物質の状態と平衡</li> <li>物質の変化と平衡</li> <li>無機物質の性質</li> <li>有機化合物の性質</li> <li>化学が果たす役割</li> </ul>	<b>《生物》</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>生物の進化</li> <li>生命現象と物質</li> <li>遺伝情報の発現と発生</li> <li>生物の環境応答</li> <li>生態と環境</li> </ul>	<b>《地学》</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>地球の概観</li> <li>地球の活動と歴史</li> <li>地球の大気と海洋</li> <li>宇宙の構造</li> </ul>
分野	物理分野	化学分野	生物分野	地学分野

（改訂案）

- 資質・能力に関する教師の理解を容易にする観点から、各「分野」をさらに3つ程度の区分に分類してはどうか（各区分の考え方については次頁のとおり）。
- この際、**学問分野の横断性については「区分」と学習内容において確保**することとしてはどうか。

（現行）

分野	（中学校）第1分野							（中学校）第2分野					
領域	エネルギー			粒子				生命			地球		
	エネルギーの捉え方	エネルギーの変換と保存	エネルギー資源の有効利用	粒子の存在	粒子の結合	粒子の保存性	粒子の持つエネルギー	生物の構造と機能	生命の連続性	生物と環境の関わり	地球の内部と地表面の変動	地球の大気と水の循環	地球と天体の運動

（改訂案）

分野	物理分野			化学分野			生物分野			地学分野		
区分	作用と変化	保存とエネルギー変換	空間における伝搬	物質の構成	物質の性質	物質の化学変化	生物の構造と機能	生命の連続性	生物と環境の関わり	地球の内部と地表面の変動	地球の大気と水の循環	地球と天体の運動
横断的学習内容例 ※	（中学校）エネルギーと物質						（中学校）生物と環境					
	（小学校）理科と日常生活（仮称）【新設】 （中学校）自然環境の保全と科学技術の利用											

※学習内容例については現行学習指導要領をベースとしたものであり、今後の議論で見直しがありうる。

議題1

議題2

## 理科の「高次の資質・能力」（物理分野）（案）

※学習内容については現行学習指導要領をベースとしたものであり、今後の議論で見直しがありうる。

※本表は検討の便宜上のもの。「高次の資質・能力」は区分ごとに定めるが、「学習内容」は区分横断的なものも存在。

区分	作用と変化		保存とエネルギー変換		空間における伝搬		
（区分の説明）	「物理現象における作用によって対象の状態はどのように変化するか」を学ぶ （参考）主な学問領域：ニュートン力学、電磁気学		「物理現象においてどのような保存則が存在するのか、また、エネルギー変換とはどのようなものなのか」を学ぶ （参考）主な学問領域：ニュートン力学、電磁気学、熱力学、原子核物理学、素粒子物理学		「空間における伝わり方にはどのような特徴や性質があるのか」を学ぶ （参考）主な学問領域：波動、電磁気学、光学		
小学校	高次の資質・能力	統合的な理解 力には種類があること、力が働くと運動が変化することを理解する。	総合的な発揮 科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。	統合的な理解 電流の流れ方には特徴があること、エネルギーは変換できることを理解する。	総合的な発揮 科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。	統合的な理解 光と音は空間を伝わり、その伝わり方には特徴があることを理解する。	総合的な発揮 科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。
	学習内容	知・技 ・力の働き ・磁石の性質 ・電流が作る磁力 ・てこの規則性 ・理科と日常生活（仮称） 【分野横断】	思・判・表 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、作用と変化についての特徴を見いだして表現すること。	知・技 ・電気の通り道 ・光と音の性質 ・電流の働き ・電気の利用 ・理科と日常生活（仮称） 【分野横断】	思・判・表 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、保存とエネルギー変換についての特徴を見いだして表現すること。	知・技 ・光と音の性質 ・理科と日常生活（仮称） 【分野横断】	思・判・表 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、空間における伝搬についての特徴を見いだして表現すること。
中学校	高次の資質・能力	統合的な理解 ○力は物体の運動状態を変化させることを理解する ○電流と磁場には関係があることを理解する。	総合的な発揮 科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。	統合的な理解 ○電気回路における電圧、電流及び抵抗の間には規則性があることを理解する。 ○エネルギーは変換されたり保存されたりすることを理解する。	総合的な発揮 科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。	統合的な理解 光と音の伝わり方には規則性があることを理解する。	総合的な発揮 科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。
	学習内容	知・技 ・力の働き ・電流 ・電流と磁場 ・力のつり合いと合成・分解 ・運動の規則性 ・自然環境の保全と科学技術の利用【分野横断】	思・判・表 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、作用と変化についての特徴を見いだして表現すること。	知・技 ・電流 ・力学的エネルギー ・エネルギーと物質【分野横断】 ・自然環境の保全と科学技術の利用【分野横断】	思・判・表 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、保存とエネルギー変換についての特徴を見いだして表現すること。	知・技 ・光と音 ・エネルギーと物質【分野横断】 ・自然環境の保全と科学技術の利用【分野横断】	思・判・表 観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、空間における伝搬についての特徴を見いだして表現すること。

高校は次頁へ

# 領域（分野及び区分）の整理

「領域」の「分野」及び「区分」への再編 ※学習内容は小学校理科の学習内容で構成している。

内容	
<p><b>【生命】</b></p> <p>1 段階 ア 身の回りの生物</p> <p>2 段階 ア 人の体のつくりと運動 イ 季節と生物</p>	<p><b>【地球・自然】</b></p> <p>1 段階 ア 太陽と地面の様子</p> <p>2 段階 ア 雨水の行方と地面の様子 イ 天気の様子 ウ 月と星</p>
<p><b>【物質・エネルギー】</b></p> <p>1 段階 ア 物と重さ イ 風やゴムの力の働き ウ 光や音の性質 エ 磁石の性質 オ 電気の通り道</p> <p>2 段階 ア 水や空気と湿度</p>	
<p><b>【生命】</b></p> <p>1 段階 ア 植物の発芽, 成長, 結実 イ 動物の誕生</p> <p>2 段階 ア 人の体のつくりと働き イ 植物の養分と水の通り道 ウ 生物と環境</p>	<p><b>【地球・自然】</b></p> <p>1 段階 ア 流れる水の働きと土地の変化 イ 天気の変化</p> <p>2 段階 ア 土地のつくりと変化 イ 月と太陽</p>
<p><b>【物質・エネルギー】</b></p> <p>1 段階 ア 物の溶け方 イ 電流の働き</p> <p>2 段階 ア 燃焼の仕組み イ 水溶液の性質 ウ てこの規則性 エ 電気の利用</p>	



分野	物理分野			科学分野			生物分野			地学分野		
	作用と変化	保存とエネルギー	空間における伝搬	物質の構成	物質の性質	物質の化学変化	生物の構造と機能	生命の連続性	生物と環境の関わり	地球の内部と地表面の変動	地球と大気と水の循環	地球と天体の運動
中学部	○	○	○	○	○	↓	○	○	○	○	○	○
高等部	○	○	↓	○	○	○	○	○	○	○	○	○
横断的学習内容例	理科と日常生活（仮称）【新設】 学習内容の総量を増加させない範囲内で、エネルギー問題や環境問題など、物理・科学・生物・地学の分野を横断する学習内容を設けてはどうか。											

## 表形式による構造化/理科/並列パターン

●第2回、第3回教育課程部会 理科ワーキンググループで提案のとおり、知的障害中学部及び高等部理科においても、「並列パターン」としてはどうか。

<理由> 理科は知識・技能の内容の系統性が明確であり、内容のまとまりに対応した固有の思考力・判断力・表現力が想定しやすい。  
(第3回理科ワーキンググループ資料より)

●知的障害中学部及び高等部理科の内容は、小学校とのつながりに留意して構成されていることや、教科の系統性を踏まえ、中学部、高等部で統一した高次の資質・能力を作成してはどうか。

●その際、小学校理科における高次の資質・能力を踏まえ作成し、学部段階ごとの留意点等については、各学部段階の学習指導要領解説で丁寧に説明してはどうか。

分野	物理分野						科学分野						生物分野				地学分野							
	作用と変化		保存とエネルギー		空間における伝搬		物質の構成		物質の性質		物質の化学変化		生物の構造と機能		生命の連続性		生物と環境の関わり		地球の内部と地表面の変動		地球と大気と水の循環		地球と天体の運動	
区分	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	高次の資質・能力																							
中学部	1段階		1段階		1段階		1段階		1段階		1段階		1段階		1段階		1段階		1段階		1段階		1段階	
	2段階		2段階		2段階		2段階		2段階		2段階		2段階		2段階		2段階		2段階		2段階		2段階	
高等部	1段階		1段階		1段階		1段階		1段階		1段階		1段階		1段階		1段階		1段階		1段階		1段階	
	2段階		2段階		2段階		2段階		2段階		2段階		2段階		2段階		2段階		2段階		2段階		2段階	

区分	作用と変化		保存とエネルギー変換		空間における伝搬	
	区分の説明	「物理現象における作用によって対象の状態はどのように変化するのか」を学ぶ		「物理現象においてどのような保存則が存在するのか、またエネルギー変換とはどのようなものなのか」を学ぶ		「空間における伝わり方にはどのような特徴や性質があるのか」を学ぶ
高次の資質・能力	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	力には種類があること、力が働くと運動が変化することを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。	電流の流れ方には特徴があること。エネルギーは変換できることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。	光と音は空間を伝わり、その伝わり方には特徴があることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。
学習内容	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	規定省略	規定省略	規定省略	規定省略	規定省略	規定省略

※小学校算数科における高次の資質・能力を踏まえ作成（補足資料3の物理分野の区分を参照）

～目標及び内容の構造化の方向性～

# 音楽

### 現行の記載

#### 【中学部学習指導要領】

##### ◎音楽科の目標

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに興味や関心をもって関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

##### 知識及び技能

曲名や曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

##### 思考力、判断力、表現力等

音楽表現を考えたことや、曲や演奏のよさを見いだしながら、音や音楽を味わって聴くことができるようにする。

##### 学びに向かう力、人間性等

進んで音や音楽に関わり、協働して音楽活動する楽しさを感じるとともに、様々な音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

##### ◎音楽的な「見方・考え方」

音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けること

### 改善案（現行ベースのたたき台）

✓ 以下は、現行の記載を基に総則・評価特別部会の方針を当てはめた「たたき台」であり、修正すべき点がないか検討する必要がある。

##### ◎音楽科の目標

表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

##### 知識及び技能

曲名や曲想と音楽のつくりなどとの関わりについて理解するとともに、曲や演奏の楽しさやよさや音楽を創造的に表現するために必要な技能を身に付けるようにする。

##### 思考力、判断力、表現力等

音楽表現について考え思いや意図をもったり、曲や演奏の楽しさやよさなどを見いだしながら味わって聴いたりすることができるようにする。

##### 学びに向かう力、人間性等

楽しさを味わいながら主体的・協働的に学習に取り組み、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を豊かにし、創造的に音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

※「学びに向かう力、人間性等」の4要素

- ①初発の思考や行動を起こす力・好奇心、②学びの主体的な調整
- ③他者との対話や協働、④学びを方向付ける人間性

##### ◎音楽的な「見方・考え方」

見方・考え方は校種を超えて共通

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

# 音楽科の領域及び分野（現行）

## 小学校・中学校・高等学校

小学校	中学校	高等学校
A 表現	A 表現	A 表現
歌唱	歌唱	歌唱
器楽	器楽	器楽
音楽づくり	創作	創作
B 鑑賞	B 鑑賞	B 鑑賞

## 知的障害特別支援学校

小学部			中学部		高等部	
1 段階	2 段階	3 段階	1 段階	2 段階	1 段階	2 段階
A 表現	A 表現	A 表現	A 表現	A 表現	A 表現	A 表現
音楽遊び	歌唱	歌唱	歌唱	歌唱	歌唱	歌唱
	器楽	器楽	器楽	器楽	器楽	器楽
	音楽づくり	音楽づくり	音楽づくり	音楽づくり	創作	創作
	身体表現	身体表現	身体表現	身体表現	身体表現	身体表現
B 鑑賞	B 鑑賞	B 鑑賞	B 鑑賞	B 鑑賞	B 鑑賞	B 鑑賞

※音楽遊び：各領域の各分野の活動を通して育成を目指す資質・能力の基礎を培う重要な活動

※身体表現：知的障害特別支援学校音楽科の独自の区分である。音やリズムを体全体で感じ取り、受け止めた思いを自発的に出てくる動きで表現すること。

# 小・中、高等学校の領域及び区分の整理を踏まえた特別支援学校の音楽科の見直し（案）

## 小学校・中学校・高等学校

第4回芸術科ワーキンググループ資料より

「A表現」領域について、

- 演奏法（声楽・器楽等）と作曲法による学問領域から演繹的に導かれる側面を踏まえ、**教師にとって分かりやすく、使いやすくなるよう**、音楽における区分構成を整理する
- **小学校**においては、**授業のねらいや子供の実態に応じて柔軟で効果的な指導を行うこと**ができるよう、「**歌唱・器楽**」及び「**音楽づくり**」により区分し、高次の資質・能力を示す
- **中学校、高等学校**においては、**小学校からの系統性や専門性の高まりを踏まえ**、「**歌唱**」、「**器楽**」、「**創作**」により区分し、それぞれについて高次の資質・能力を示す

（表）小学校・中学校・高等学校の「A表現」の区分整理（案）

小学校	中学校	高等学校
A 表現	A 表現	A 表現
歌唱・器楽	歌唱	歌唱
	器楽	器楽
音楽づくり	創作	創作
B 鑑賞	B 鑑賞	B 鑑賞

## 知的障害特別支援学校

- 知的障害のある児童生徒においても、授業のねらいや児童生徒の実態に応じて柔軟で効果的な指導を行うことは重要である。よって、**小学部の2段階、3段階及び中学部の1段階、2段階の「歌唱」及び「器楽」については、小・中学校同様に「歌唱・器楽」とし**、高次の資質・能力を示してはどうか。
- 知的障害特別支援学校の独自の区分である「**身体表現**」については、**小学部・中学部において、従前どおり設けることとし、高等部においては、学びの連続性や生活年齢及び発達の段階等を考慮し、設けないこととしてはどうか**。その際、障害の状態等が多様な実態を踏まえ、現行学習指導要領の内容の取扱いのAに示す通り、指導のねらいに即して体を動かす活動を各領域の指導に取り入れることの記載を残してはどうか。

1 段階	小学部		中学部		高等部	
	2 段階	3 段階	1 段階	2 段階	1 段階	2 段階
A 表現	A 表現	A 表現	A 表現	A 表現	A 表現	A 表現
音楽遊び	歌唱・器楽	歌唱・器楽	歌唱・器楽	歌唱・器楽	歌唱	歌唱
	器楽				器楽	器楽
	音楽づくり	音楽づくり	音楽づくり	音楽づくり	創作	創作
	身体表現	身体表現	身体表現	身体表現	/	
B 鑑賞	B 鑑賞	B 鑑賞	B 鑑賞	B 鑑賞	B 鑑賞	B 鑑賞

# 表形式による構造化／音楽／並行パターン

## ● 第4回、第5回芸術科ワーキンググループで提案のとおり、知的障害音楽科においても、「並行パターン」としてはどうか

〈理由〉芸術科・科目においては、知識を得ることによって、考え方や捉え方の豊かさにつながり学びの深まりが生まれる。知識をもとに思いや意図をもったり、発想や構想をしたりしたことを、身体を用いながら技能を働かせることによって表現したり、鑑賞したりする。この過程を往還しながら資質・能力を習熟させていく点に特徴がある。このような点は「知識及び技能」が全体として「思考力、判断力、表現力等」の深まりを助ける構造に近いものとして考えることができることを踏まえると、並行パターンが適当ではないか。

### 案

✓ 以下は、現行の記載を基に総則・評価特別部会の方針を当てはめた「たたき台」であり、修正すべき点がないか検討する必要がある。

- 高次の資質・能力の示し方は、小・中学校等と同様に、**区分ごとに示すこととするが、学校段階（学部）の示し方については、学びの連続性を踏まえた区分の整理をしたことや、各学部の目標及び内容を踏まえ、小・中学部と高等部の2つに分けて、高次の資質・能力を示してはどうか。**
- なお、**A表現の区分「音楽遊び」は、小学部1段階のみに設けている区分である。内容の充実を図りつつ、小学部1段階のみで示すこととしてはどうか。**

領域	区分	高次の資質・能力	小学部	
			1段階	
A 表現	音楽 遊び	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮	規定 省略	
		知識及び技能の統合的な理解		
B 鑑賞		思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮		
		知識及び技能の統合的な理解		

領域	区分	高次の資質・能力	小学部		中学部	
			2段階	3段階	2段階	3段階
A 表現	歌唱 ・ 器楽	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮	規定 省略	規定 省略	規定 省略	規定 省略
		知識及び技能の統合的な理解				
	音楽 づくり	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮				
		知識及び技能の統合的な理解				
	身体 表現	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮				
		知識及び技能の統合的な理解				
B 鑑賞		思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮				
		知識及び技能の統合的な理解				

領域	区分	高次の資質・能力	高等部	
			1段階	2段階
A 表現	歌唱	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮	規定 省略	規定 省略
		知識及び技能の統合的な理解		
	器楽	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮		
		知識及び技能の統合的な理解		
	創作	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮		
		知識及び技能の統合的な理解		
B 鑑賞		思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮		
		知識及び技能の統合的な理解		

## 高次の資質・能力 / 音楽 / 小学部・中学部 領域：A表現 区分：歌唱・器楽

領域	区分	高次の資質・能力	小学部		中学部	
			2段階	3段階	1段階	2段階
A 表現	歌唱・器楽	<b>思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮</b>	規定省略	規定省略	規定省略	規定省略
		音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考し、曲のよさを生かした表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって歌唱や器楽による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる。				
		<b>知識及び技能の統合的な理解</b>	規定省略	規定省略	規定省略	規定省略
		曲の特徴などを個々の感じ方や考え方等に基づいて捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図を歌唱や器楽で表すことができることを理解している				

## 高次の資質・能力 / 音楽 / 高等部 領域：A表現 区分：歌唱、器楽

領域	区分	高次の資質・能力	高等部部	
			2段階	3段階
A 表現	歌唱	<b>思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮</b>	規定省略	規定省略
		音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、曲のよさを生かした表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって歌唱による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる。		
		<b>知識及び技能の統合的な理解</b>	規定省略	規定省略
		音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、曲のよさを生かした表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって歌唱による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる。		
	器楽	<b>思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮</b>	規定省略	規定省略
		音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、曲のよさを生かした表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって器楽による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる。		
	<b>知識及び技能の統合的な理解</b>	規定省略	規定省略	
	音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、曲のよさを生かした表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって器楽による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる。			

## 高次の資質・能力 / 音楽 / 小学部・中学部 領域：B鑑賞

領域	高次の資質・能力	小学部		中学部	
		2段階	3段階	1段階	2段階
B 鑑賞	<b>思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮</b> 音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考し、曲全体を見通しながら聴き、自分や身近な他者にとって鑑賞がもつ意味や価値を見いだし音楽を聴き味わうことができる。	規定省略	規定省略	規定省略	規定省略
	<b>知識及び技能の統合的な理解</b> 個々の感じ方や考え方等に基づいて音楽の特徴などを感じるにより、楽しさ、よさなどを見いだすことができることを理解している。	規定省略	規定省略	規定省略	規定省略

## 高次の資質・能力の案 / 音楽 / 高等部 領域：B鑑賞

領域	高次の資質・能力	高等部	
		2段階	3段階
B 鑑賞	<b>思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮</b> 音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、曲全体を見通しながら聴き、自分や他者にとって鑑賞がもつ意味や価値を見いだし音楽を聴き味わうことができる。	規定省略	規定省略
	<b>知識及び技能の統合的な理解</b> 個々の感じ方や考え方等に基づいて音楽の特徴などを捉えることにより、楽しさ、よさや美しさなどを見いだすことができることを理解している。	規定省略	規定省略

～目標及び内容の構造化の方向性～

# 図画工作・美術

現行の記載

【小学部学習指導要領】

◎ 図画工作科の目標

表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能

形や色などの造形的な視点に気付き、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫してつくりだすことができるようになる。

思考力、判断力、表現力等

造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方などについて考え、発想や構想をしたり、身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。

学びに向かう力・人間性等

つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。

◎ 造形的な「見方・考え方」

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと

改善案（現行ベースのたたき台）

✓ 以下は、現行の記載を基に総則・評価特別部会の方針を当てはめた「たたき台」であり、修正すべき点がないか検討する必要がある。

◎ 図画工作科の目標

表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力について、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能

形や色などの造形的な視点や、造形の働きについて気付き、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫してつくりだすことができるようになる。

思考力、判断力、表現力等

造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方などについて考え、発想や構想をしたり、身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。

学びに向かう力・人間性等

つくりだす喜びを味わいながら主体的・協働的に活動に取り組むとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。

※「学びに向かう力、人間性等」の4要素

- ① 初発の思考や行動を起こす力・好奇心、② 学びの主体的な調整
- ③ 他者との対話や協働、④ 学びを方向付ける人間性

◎ 造形的な「見方・考え方」

見方・考え方は校種を超えて共通

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

# 図画工作科・美術科の構成等の見直し案（イメージ）

## 小学校・中学校

### 現行の内容の構成

		小学校(図画工作)	中学校(美術)
A 表現	思考力、判断力、表現力等	造形遊びをする活動	感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想
		絵や立体, 工作に表す活動	目的や機能などを考えた発想や構想
	技能	造形遊びをする活動	発想や構想をしたことなどを基に, 表現する活動
		絵や立体, 工作に表す活動	
B 鑑賞	思考力、判断力、表現力等	鑑賞する活動	美術作品などに関する鑑賞 美術の働きや美術文化に関する鑑賞
共通事項	知識	「A表現」「B鑑賞」の指導を通して育成	
	思、判、表	「A表現」「B鑑賞」の指導を通して育成	

### 高次の資質・能力の領域・区分イメージ

		小学校(図画工作)	中学校(美術)
A 表現	思考力、判断力、表現力等	造形遊び(仮)	自分と美術(仮)
		絵や立体, 工作(仮)	身近な生活や社会と美術(仮)
	知識及び技能	造形遊び(仮)	自分と美術(仮)
		絵や立体, 工作(仮)	身近な生活や社会と美術(仮)
B 鑑賞	思考力、判断力、表現力等	鑑賞	自分と美術(仮)
			身近な生活や社会と美術(仮)
	知識及び技能		自分と美術(仮)
			身近な生活や社会と美術(仮)

## 知的障害特別支援学校

### 現行の内容の構成

		特別支援学校 小学部(図画工作)	特別支援学校 中学部(美術)	特別支援学校 高等部(美術)
A 表現	思考力、判断力、表現力等	絵をかいたり作品をつくったりする活動	表したいことや表し方を考えて、描いたり、つくったり、それらを飾ったりする活動	感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に、描いたり、つくったりする活動
	技能	絵をかいたり作品をつくったりする活動	表したいことや表し方を考えて、描いたり、つくったり、それらを飾ったりする活動	感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に、描いたり、つくったりする活動
B 鑑賞	思考力、判断力、表現力等	自分たちの作品や身の回りにある作品などを鑑賞する活動	自分たちの作品や美術作品などの鑑賞の活動	美術作品や生活の中の美術の働き、美術文化などの鑑賞
共通事項	知識	「A表現」「B鑑賞」の指導を通して育成		
	思、判、表	「A表現」「B鑑賞」の指導を通して育成		

### 見直し案

		特別支援学校 小学部(図画工作)	特別支援学校 中学部(美術)	特別支援学校 高等部(美術)
A 表現	思考力、判断力、表現力等	造形遊び(仮)	造形遊び(仮)	自分と美術(仮)
		絵や立体, 工作(仮)	絵や立体, 工作(仮)	身近な生活や社会と美術(仮)
	知識及び技能	造形遊びをする(仮)	造形遊びをする(仮)	自分と美術(仮)
		絵や立体, 工作(仮)	絵や立体, 工作(仮)	身近な生活や社会と美術(仮)
B 鑑賞	思考力、判断力、表現力等	鑑賞	鑑賞	自分と美術(仮)
				身近な生活や社会と美術(仮)
	知識及び技能			自分と美術(仮)
				身近な生活や社会と美術(仮)

- ・小学部・中学部共に、小学校の内容に準じて、造形遊びを取り入れてはどうか。その際、中学部は生活年齢を考慮した名称等を検討してはどうか。
- ・高等部は、中学校美術に準じた見直しをしてはどうか。

# 表形式による構造化／図画工作・美術／並行パターン

小学部(図画工作)・中学部(美術)	A 表現	造形遊び(仮)	高次の資質・能力		小学部			高次の資質・能力		中学部	
			思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	1段階	2段階	3段階	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	1段階	2段階
		造形遊び(仮)	知識及び技能	総合的な理解	1段階	2段階	3段階	知識及び技能	総合的な理解	1段階	2段階
			思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	1段階	2段階	3段階	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	1段階	2段階
		工作(仮) 絵や立体、	知識及び技能	総合的な理解	1段階	2段階	3段階	知識及び技能	総合的な理解	1段階	2段階
			思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	1段階	2段階	3段階	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	1段階	2段階
	B 鑑賞		知識及び技能	総合的な理解	1段階	2段階	3段階	知識及び技能	総合的な理解	1段階	2段階
			思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	1段階	2段階	3段階	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	1段階	2段階

高等部(美術)	A 表現	自分と美術(仮)	高次の資質・能力		高等部	
			思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	1段階	2段階
		自分と美術(仮)	知識及び技能	総合的な理解	1段階	2段階
			思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	1段階	2段階
		社会と美術(仮) 身近な生活や	知識及び技能	総合的な理解	1段階	2段階
			思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	1段階	2段階
	B 鑑賞		知識及び技能	総合的な理解	1段階	2段階
			思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	1段階	2段階

# 高次の資質・能力の案 / 図画工作・美術 / 学部別 - 領域別

小学部 (図画工作)			高次の資質・能力		小学部		
	A 表現	(仮)	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮		1段階	2段階
形や色などを基に自分のイメージをもちながら、感じたこと、想像したこと、見たこと、思ったことから、表したいことを見付たり、どのように表すかについて考えたりすることができる				規定省略	規定省略	規定省略	
知識及び技能			統合的な理解		1段階	2段階	3段階
			自分の感覚や行為を通して造形的な特徴を捉えながら、材料や用具を使い、表したいことに合わせて表し方を工夫してつくることを理解している		規定省略	規定省略	規定省略
B 鑑賞		思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮		1段階	2段階	3段階
			形や色などを基に自分のイメージをもちながら、作品などの形や色、表し方の面白さなどについて感じ取り、自分の見方や感じ方を広げることができる		規定省略	規定省略	規定省略
		知識及び技能	統合的な理解		1段階	2段階	3段階
			自分の感覚や行為を通して造形的な特徴を捉えながら、作品などを工夫して鑑賞できることを理解している		規定省略	規定省略	規定省略

高等部 (美術)			高次の資質・能力		高等部	
	A 表現	自分と美術 (仮)	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮		1段階
対象や事象を自己との関わりの視点に立って見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基に主題を生み出し、豊かに発想や構想をすることができる				規定省略	規定省略	
知識及び技能			統合的な理解		1段階	2段階
			造形の要素の働きや全体のイメージ、美術の働きや美術文化について実感を伴って捉えながら、材料や用具の生かし方などを身に付け、自分との関わりの視点から意図に応じて表現方法を工夫して表すことにより、創造的に表現できることを理解している		規定省略	規定省略
B 鑑賞	自分と美術 (仮)	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮		1段階	2段階
			自分との関わりの視点に立って美術作品などを見つめ、造形的なよさや美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を深めることができる		規定省略	規定省略
		知識及び技能	統合的な理解		1段階	2段階
			造形の要素の働きや全体のイメージ、美術の働きや美術文化について実感を伴って捉えながら、感じ取ったことや考えたことなどを基に表現された美術作品などの情報を読み取ることにより、創造的に鑑賞できることを理解している		規定省略	規定省略

～目標及び内容の構造化の方向性～

# 体育・保健体育

現行の記載

【小学部学習指導要領】

◎ 体育科の目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題に気付き、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
遊びや基本的な運動の行い方及び身近な生活における健康について知るとともに、基本的な動きや健康な生活に必要な事柄を身に付けるようにする。	遊びや基本的な運動及び健康についての自分の課題に気付き、その解決に向けて自ら考え行動し、他者に伝える力を養う。	遊びや基本的な運動に親しむことや健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。



改善案（現行ベースのたたき台）

✓ 以下は、現行の記載を基に総則・評価特別部会の方針を当てはめた「たたき台」であり、修正すべき点がないか検討する必要がある。

◎ 体育科の目標

心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力について、運動や健康に関する課題の発見・解決に向けた学習過程を通して、障害の状態や特性及び発達の段階等に応じて次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
遊びや基本的な運動の行い方との関わり及び身近な生活における健康について知るとともに、基本的な動きや健康な生活に必要な事柄を身に付けるようにする。	遊びや基本的な運動及び健康についての自分の課題に気付き、その解決に向けて自ら考え行動し、他者に伝える力を養う。	遊びや基本的な運動に親しむことや健康について、課題解決に向けて、他者と協力したり自ら考え行動したりする態度を養う。 ● 自分にとっての運動や健康の重要性を見出しつつ、体力の向上や健康の保持増進を目指し、明るく楽しい生活を営む態度を養う。

◎ 体育の「見方・考え方」

見方・考え方は校種を超えて共通

運動やスポーツを、心身の充実に果たす役割や、多様な楽しみ方の視点から捉え、自他の豊かな生活及び活力あふれる社会づくりに関連付けること。

◎ 保健の「見方・考え方」

保健に関する課題や情報を、健康や安全に関する概念やそれに関わる原則に着目して捉え、リスクの軽減や生活の質の向上、及び健康・安全を支える環境づくりに関連付けること。

◎ 体育の「見方・考え方」

運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自分の適性等に応じた「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方と関連付けること

◎ 保健の「見方・考え方」

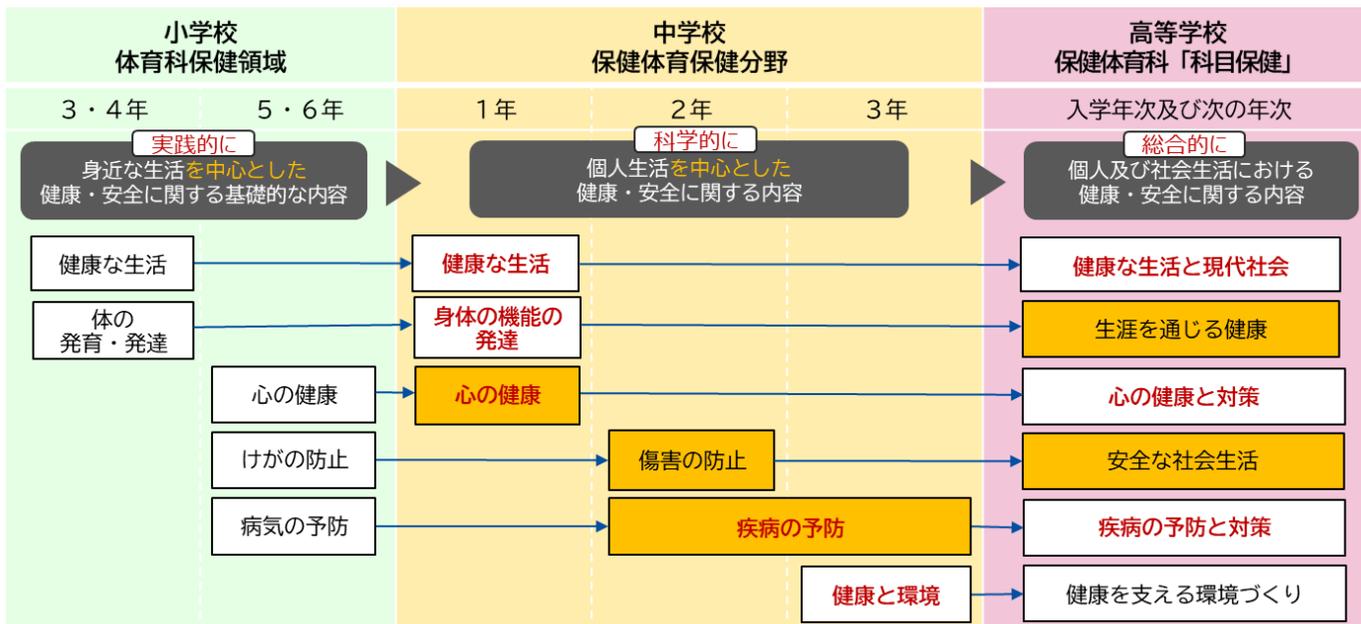
個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること。



# 小・中・高等学校における体育科・保健体育科の運動領域等の 系統性の改善イメージ（案）

令和 8 年 2 月 1 9 日  
 体育・保健体育、健康、安全WG（第7回）  
 資 料 2

各種の運動の基礎を培う時期				多くの領域の運動を経験するとともに スポーツの文化や理論の基礎に触れる時期				卒業後も運動やスポーツに多様な楽しみ方で 豊かに関わることができるようにする時期			
小学校				中学校				高等学校			
1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	1年生	2年生	3年生	入学年次	次の年次	それ以降
体づくりの運動遊び	体づくりの運動遊び	体づくりの運動遊び	体づくりの運動遊び	体づくり運動	体づくり運動	体づくり運動	体づくり運動	体づくり運動	体づくり運動	体づくり運動	体づくり運動
器械・器具を 使ったの運動遊び	器械・器具を 使ったの運動遊び	器械・器具を 使ったの運動遊び	器械・器具を 使ったの運動遊び	器械運動	器械運動	器械運動	器械運動	器械運動	器械運動	器械運動	器械運動
走・跳の運動遊び	走・跳の運動遊び	走・跳の運動遊び	走・跳の運動遊び	陸上運動	陸上運動	陸上運動	陸上運動	陸上競技	陸上競技	陸上競技	陸上競技
水遊び	水遊び	水遊び	水遊び	水泳運動	水泳運動	水泳運動	水泳運動	水泳	水泳	水泳	水泳
表現リズム遊び	表現リズム遊び	表現リズム遊び	表現リズム遊び	表現運動	表現運動	表現運動	表現運動	ダンス	ダンス	ダンス	ダンス
ゲーム	ゲーム	ゲーム	ゲーム	ボール運動	ボール運動	ボール運動	ボール運動	球技	球技	球技	球技
						武道	武道	武道	武道	武道	武道
保健領域				保健分野				科目保健			
				体育理論				体育理論			
								必修			
								選択			



# 体育・保健の「表形式を用いた内容の一層の構造化」「高次の資質・能力」について（現状の整理）

令和8年1月16日  
 体育・保健体育、健康、安全WG（第6回）  
 資料 2

## 検討状況・方向性

### <体育・保健共通>

- 体育・保健いずれも、「知技」の内容の系統性が明確であり、「知技」のまとまりに対応した「思判表」が想定されることから、「知技」に対応して一体的に育成を目指す「思判表」を示す、「並列パターン」の表を用いて整理することとしてはどうか。

※「並列パターン」のイメージは下図のとおり

※「高次の資質・能力」や「内容の一層の構造化」は、総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて適時立ち返りながら検討することを想定

### <体育>

- 「知技」における公正、協力、責任等の「運動との関わり方（仮称）」に関する内容は、全ての運動領域でその学習を支え豊かにする性格を有するものであることを踏まえ、各領域の特性を踏まえて取り扱うことを前提としつつ、全ての領域共通で示すこととしてはどうか。

### <保健>

- 保健の「見方・考え方」において言及している健康や安全に関する「概念」やそれに関わる「原則」は、内容のまとまりによって性質が異なる（例：「傷害の防止」であれば、応急手当の原則は一定程度明確な一方で、「健康と環境」であれば、身体の適応能力について、どのような環境がどの程度影響をもたらすかは必ずしも一定ではない）こと等から、「表形式による内容の整理」や「高次の資質・能力」において、内容の特質に応じてわかりやすく示すことに十分留意してはどうか。

※次ページ以降の「高次の資質・能力（案）」は、今後、企画特別部会における議論等を踏まえて適宜立ち返りながら検討を進める想定。

※次ページ以降の「内容項目例」は、現行の内容をベースに「高次の資質・能力（案）」の検討に当たっての目安として、一例のイメージを示すもの。

## 表形式による構造化パターン①（並列パターン）

令和7年10月14日  
 総則・評価特別部会資料  
 （会議後修正版）

← 資質・能力の一体的育成の可視化 →

(1) 項目名		知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
		この内容のまとまりを通じて獲得して欲しい統合的な理解等を示す（検討項目④で詳細を検討）	この内容のまとまりにおける知識及び技能を活用しつつ、思考力、判断力、表現力等を総合的に発揮して複雑な課題を解決できる力を示す（検討項目④で詳細を検討）
○学年相当	(小見出し) . . (小見出し) . .	右に示す思考・判断・表現の過程で、上に示す統合的な理解を獲得するために必要な要素となる知識及び技能を示す（検討項目⑤で詳細を検討）	(小見出し) . . (小見出し) . . 左に示す知識及び技能を活用しながら、上に示す複雑な課題の解決をする上で必要な要素となる思考力、判断力、表現力等を示す（検討項目⑤で詳細を検討）
○学年相当	(小見出し) . (小見出し) . .		知識及び技能に対応する思考力、判断力、表現力等が共通する場合など、分けて示す必要がない場合は、可能な限り繰り返しを避け、セルを統合して示すなど簡素な示し方となるよう工夫する。
○学年相当	(小見出し) . (小見出し) . .		
(内容の取扱い)			

↑ 資質・能力の深まりの可視化 ↓

想定する指導学年を明示する場合は、「○学年相当」という形で示す。（示さない場合や、複数学年毎に示す場合、単学年毎に示す場合など柔軟に対応）

※表の読み方を示す柱書きや見出し、各項目の番号の示し方等の平仄については告示の検討に際して技術的に検討

# 知的障害の体育運動領域等の「系統性」の見直しイメージ

小・中・高校



上記を踏まえた知的障害の体育運動領域等の見直し

知的障害特別支援学校

小学部			中学部		高等部	
1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階
A 体つくりの運動遊び	A 体つくりの運動遊び	A 体つくりの運動遊び	A 体つくり運動	A 体つくり運動	A 体つくり運動	A 体つくり運動
B 器械・器具を使った遊び	B 器械・器具を使った運動遊び	B 器械・器具を使った運動遊び	B 器械運動	B 器械運動	B 器械運動	B 器械運動
C 走・跳の運動遊び	C 走・跳の運動遊び	C 走・跳の運動遊び	C 陸上運動	C 陸上運動	C 陸上競技運動	C 陸上競技運動
D 水遊び	D 水の申での運動 水遊び	D 水の申での運動 水遊び	D 水泳運動	D 水泳運動	D 水泳運動	D 水泳運動
E ボール遊び	E ボールを使った運動やゲーム	E ボールを使った運動やゲーム	E 球技 ボール運動	E 球技 ボール運動	E 球技 ボール運動	E 球技 ボール運動
			F 武道	F 武道	F 武道	F 武道
F 表現遊び	F 表現運動遊び	F 表現運動遊び	G ダンス表現運動	G ダンス表現運動	G ダンス表現運動	G ダンス表現運動
					H 体育理論	H 体育理論
G 保健	G 保健	G 保健	H 保健	H 保健	I 保健	I 保健

# 表形式による構造化／体育・保健体育／並列パターン

- 小・中、高等学校との連続性を踏まえ、知的障害体育、保健体育科においても、「並行パターン」としてはどうか。
- 「知技」における公正、協力、責任等の「運動との関わり方（仮称）」に関する内容は、全ての運動領域でその学習を支え豊かにする性格を有するものであることを踏まえ、小・中学校等と同様に、各領域の特性を踏まえて取り扱うことを前提としつつ、全ての領域共通で示すこととしてはどうか。
- 高次の資質・能力の示し方は、系統性的見直しを踏まえ、小・中学校等と同様に、領域ごとに示すこととするが、学校段階（学部）の示し方については、学びの連続性を踏まえて整理をしたことや、各学部の目標及び内容を踏まえ、各種の運動の基礎を培う「小学部」と多くの領域の運動を経験するとともにスポーツの文化や理論の基礎に触れる「中学部、高等部」の2つに分けて、高次の資質・能力を示してはどうか。

		小学部			中学部				高等部			
目標		省略			省略				省略			
段階の目標		省略	省略	省略	省略				省略	省略		
高次の資質・能力		高次の資質・能力			高次の資質・能力				高次の資質・能力			
領域ごと		1段階	2段階	3段階	領域ごと				1段階	2段階	1段階	2段階
知・技	思・判・表				知・技	思・判・表						
		A 体づくり運動遊び	A 体づくり運動遊び	A 体づくり運動遊び			A 体づくり運動	A 体づくり運動	A 体づくり運動	A 体づくり運動		
		B 器械・器具を使つての遊び	B 器械・器具を使つての遊び	B 器械・器具を使つての遊び			B 器械運動	B 器械運動	B 器械運動	B 器械運動		
		C 走・跳の運動遊び	C 走・跳の運動遊び	C 走・跳の運動遊び			C 陸上運動	C 陸上運動	C 陸上運動	C 陸上運動		
		D 水遊び	D 水遊び	D 水遊び			D 水泳運動	D 水泳運動	D 水泳運動	D 水泳運動		
		E ボール遊び	E ボールを使った運動やゲーム	E ボールを使った運動やゲーム			E ボール運動	E ボール運動	E ボール運動	E ボール運動		
										F 武道	F 武道	
		F 表現遊び	F 表現遊び	F 表現遊び			G 表現運動	G 表現運動	G 表現運動	G 表現運動		
										H 体育理論	H 体育理論	
			G 保健	G 保健			H 保健	H 保健	I 保健	I 保健		

※以降C～Gも同様

		A 体づくり運動遊び (小学部)		B 器械・器具を使っの遊び (小学部)	
高次の 資質・能力	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮	
	・心と体の関係に気付いたり仲間と関わり合ったりすることにより、体を動かす心地よさを味わったり、体の動きを高めたりすることができることを理解する	・心身の状態等に応じて、運動の行い方・工夫するとともに、誰もが楽しく安心して運動に取り組むことができるような行い方を選ぶ	・器具等を使い、回転したり、支持したり、逆位になったり、懸垂したりするなどの動きや技に挑戦し、各自の課題に応じた動きや技ができるようになることにより楽しさや喜びを一層味わうことができることを理解する	・器具等を使う運動について、自己の課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫するとともに、誰もが楽しく安心して運動に取り組むことができるような行い方を選ぶ	
小学部	1段階	規定省略	規定省略	規定省略	規定省略
	2段階	規定省略	規定省略	規定省略	規定省略
	3段階	規定省略	規定省略	規定省略	規定省略

※以降C～Hも同様

		A 体づくり運動 (中学部・高等部共通)		B 器械運動 (中学部・高等部共通)	
高次の 資質・能力	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮	
	・心と体の関係や自身の状況等を踏まえ仲間と関わり合ったり、計画的に生活に運動を取り入れたりすることで、体を動かす楽しさや心地よさを味わったり、体の動きを高めたりすることができることを理解する	・心身の状況等から、自他が体を動かす楽しさや心地よさを味わったり体の動きを高めたりするために必要なことを考え、運動を通して仲間と関わる方法や運動の組み合わせを工夫する	・器具の特性等に応じて、回転したり、支持したり、懸垂したり、バランスをとったりするなどの技に挑戦し、各自の課題に応じた技ができるようになることにより、自他が楽しさや喜びを一層味わうことができることを理解する	・器具の特性等から、自他が器械運動の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら技を習得する練習方法や演技構成を工夫する	
中学部	1段階	規定省略	規定省略	規定省略	規定省略
	2段階	規定省略	規定省略	規定省略	規定省略
高等部	1段階	規定省略	規定省略	規定省略	規定省略
	2段階	規定省略	規定省略	規定省略	規定省略

# 高次の資質・能力の案 / 体育領域 / 小と中高別

## —「運動との関わり方」全ての領域共通

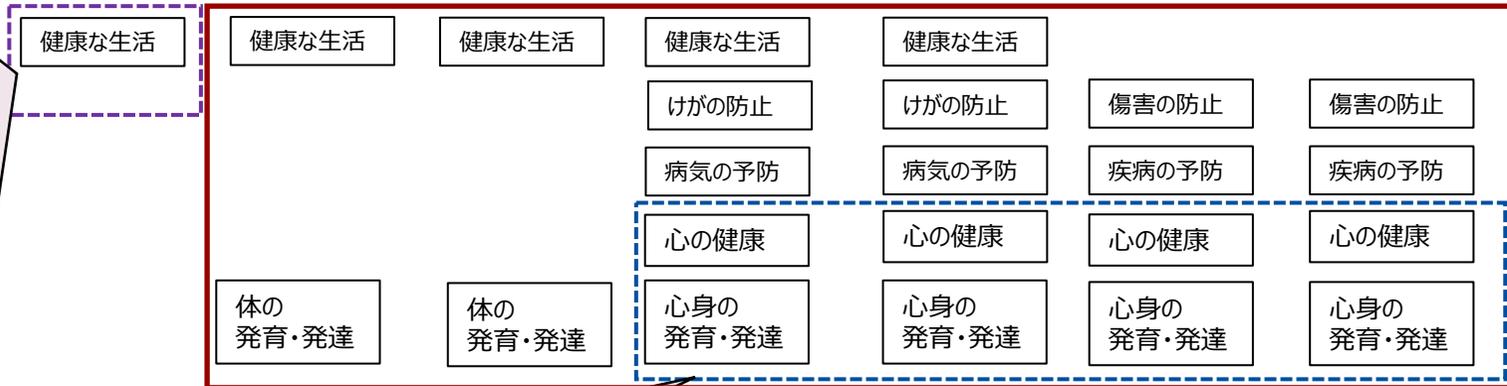
【全ての領域共通】運動との関わり方			
高次の資質・能力		知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
		・運動等の特性等応じて、公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全といった概念を踏まえて必要な行動をとることで、自他が運動に豊かに親しむことができることを理解する	・運動等の特性等から、自他が運動の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、自らの運動や仲間との関わり方などを工夫する
小学部	1～3段階	公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全等に関する概念や方法等	運動の行い方に関する共生等に関する課題の発見や解決

高次の資質・能力		知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
		・運動等の特性等応じて、公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全といった概念を踏まえて必要な行動をとることで、自他が自らの人生において運動に豊かに親しむことができることを理解する	・運動等の特性等から、自他が運動の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、自らの運動や仲間との関わり方や安全の確保の仕方などを工夫し、生活に適用する
中学部	1～2段階	公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全等に関する概念や方法等	運動実践につながる公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全等に関する課題の発見や解決
高等部	1～2段階		

# 小・中・高等学校における保健の「系統性」改善イメージを踏まえた 知的障害の保健領域の「系統性」の見直し（案）

小学部 G 保健			中学部 H 保健		高等部 I 保健	
1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階
ア 教師と一緒に、うがいなどの健康な生活に必要な事柄をすること。	ア 教師の支援を受けながら、健康な生活に必要な事柄をすること。	ア 健康や身体の変化について知り、健康な生活に必要な事柄に関する基本的な知識や技能を身に付けること。	ア 体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方が分かり、基本的な知識及び技能を身に付けること。	ア 体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方について理解し、基本的な技能を身に付けること。	ア 心身の発育・発達、傷害の防止及び疾病の予防等を理解するとともに、健康で安全な個人生活を営むための技能を身に付けること。	ア 心身の発育・発達、傷害の防止及び疾病の予防等の理解を深めるとともに、健康で安全な個人生活及び社会生活を営むための目的に応じた技能を身に付けること。
イ 健康な生活に必要な事柄に気づき、教師に伝えること。	イ 健康な生活に必要な事柄に慣れ、感じたことを他者に伝えること。	イ 健康な生活に必要な事柄について工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。	イ 自分の健康・安全についての課題を見つけ、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	イ 自分やグループの健康・安全についての課題を見つけ、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	イ 健康・安全に関わる自己の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えること。	イ 健康・安全に関わる自己の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝えること。

検討①  
小学校低学年で保健の取扱いがないことや発達の段階等を踏まえ、小学部2段階からの取扱いにしてはどうか。その際、現行の1段階2段階で取扱う、うがいはじめとする手洗い、汗の処理などの指導内容の重要性を考慮し、生活科での取扱いにしてはどうか。



検討②  
現行においては、知的障害の特性等を踏まえ、心と体の密接な関係を重視し、従前より「心身」としているため、引き続き、領域を分けずにしてはどうか。

検討③  
「資質・能力の深まり」と「資質・能力の一体的育成」の可視化による「深い学び」の具現化については、小学校等に準じつつ「健康な生活」「けが、傷害の防止」「病気・疾病の予防、安全な社会生活」「心の健康と心身の発育・発達」の4つの領域で整理してはどうか。また、知的障害の特性等や内容等を考慮し、小学部から高等部までを通して示してはどうか。

## 高次の資質・能力の案 / 保健領域 / 学部共通一領域別

領域	健康な生活		けが、傷害の防止		病気、疾病の予防		心の健康と心身の発育・発達	
	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
高次の資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康の状態には、個人の生活行動や社会環境が関わっており、人が健康に過ごすためには、生活行動を整えたり、より良い社会環境を目指すことが必要であることを理解する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康を保持増進する方法を見だし、自他の生活に適用する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>傷害は、人の行動や生活環境及びそれらの相互によって発生していることを踏まえ、要因に対応した防止方法を身に付けることで、傷害の防止につながることを理解する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>危険の予測や回避の方法を多面的に考え、自他の生活に適用する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>疾病の要因を踏まえた予防方法をとることで、既存の病気に加え、未知の疾病の予防にも活用できることを理解する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>疾病概念や予防の原則を拡張し、疾病の予防方法を考え、自他の生活に適用する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体機能の発達を踏まえた適切な生活行動について身に付けることで、よりよい成長や行動選択ができるようになることを理解する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体機能の発達や適切な生活行動について考え、自他の生活に適用する</li> </ul>
小学部	1段階	/	/	/	/	/	/	/
	2段階	規定省略	規定省略	/	/	/	/	/
	3段階	規定省略	規定省略	/	/	/	/	/
中学部	1段階	規定省略	規定省略	規定省略	規定省略	規定省略	規定省略	規定省略
	2段階	規定省略	規定省略	規定省略	規定省略	規定省略	規定省略	規定省略
高等部	1段階	/	/	規定省略	規定省略	規定省略	規定省略	規定省略
	2段階	/	/	規定省略	規定省略	規定省略	規定省略	規定省略

～目標及び内容の構造化の方向性～

# 家庭

### 現行の記載

#### 【中学部学習指導要領】

##### ◎職業・家庭科の目標

生活の営みに係る見方・考え方や職業の見方・考え方を働かせ、生活や職業に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
生活や職業に対する関心を高め、将来の家庭生活や職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。	将来の家庭生活や職業生活に必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、自分の考えを表現するなどして、課題を解決する力を養う。	よりよい家庭生活や将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。

##### ◎生活の営みに係る「見方・考え方」

家庭分野が学習対象としている家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る事象を、健全で豊かな家庭生活を営む視点で捉え、生涯にわたって自立し共に生きる生活を想像するために、よりよい生活を工夫すること

### 改善案（現行ベースのたたき台）

✓ 以下は、現行の記載を基に総則・評価特別部会の方針を当てはめた「たたき台」であり、修正すべき点がないか検討する必要がある。

##### ◎家庭科の目標

自分、家族・家庭及び地域における生活をよりよくしようとする資質・能力について、生活に関する実践的・体験的な学習活動を通して次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
家族・家庭生活、生活経営・消費や衣食住などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決策を考え、実践を評価・改善し、自分の考えを表現するなどして、日常生活の課題を解決する力を養う。	・家庭生活を大切にする心情を育むとともに、家族や地域の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。 ・自分、家族・家庭及び地域における生活の中から問題を見だし、その解決に向けて、対話や協働により考えを広げ深め、工夫・改善をしようとする態度を養う。

※「学びに向かう力、人間性等」の4要素

- ①初発の思考や行動を起こす力・好奇心、②学びの主体的な調整
- ③他者との対話や協働、④学びを方向付ける人間性

##### ◎生活の営みに係る「見方・考え方」 見方・考え方は校種を超えて共通

自分や家族の生活の営みを、地域や社会との関わりの中で、持続的なものとする視点から捉え、主体的によりよい生活を創り出すこと

# 家庭科の領域及び内容（現行）

## （小学校、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領及び特別支援学校高等部学習指導要領）

	A 家族・家庭生活	B 衣食住の生活	C 消費生活・環境
小学校	(1)自分の成長と家族・家庭生活	(1)食事の役割	(1)物や金銭の使い方と買い物
	(2)家庭生活と仕事	(2)調理の基礎	(2)環境に配慮した生活
	(3)家族や地域の人々との関わり	(3)栄養を考えた食事	
	(4)家族・家庭生活についての課題と実践	(4)衣服の着用と手入れ	
		(5)生活を豊かにするための布を用いた製作	
		(6)快適な住まい方	
中学部 ※数字は段階	1,2ア 自分の成長と家族	1,2ア 食事の役割	1,2ア 身近な消費生活
	1,2イ 家庭生活と役割	1イ,2ウ 調理の基礎	1,2イ 環境に配慮した生活
	1,2ウ 家庭生活における余暇	2イ 栄養を考えた食事	
	1イ 幼児の生活と家族	1ウ, 2エ 衣服の着用と手入れ	
	2エ 家族や地域の人々との関わり	1エ 快適な住まい方	
		2オ 快適で安全な住まい方	
高等部 ※数字は段階	1,2ア 自分の成長と家族	1ア 食事の役割	1,2ア 消費生活
	1,2イ 家庭生活での役割と地域との関わり	1イ 日常食の調理	1,2イ 消費者の基本的な権利と責任
	1,2ウ 家庭生活における健康管理と余暇	2ア 必要な栄養を満たす食事	
	1,2エ 乳幼児や高齢者などの生活	2イ 日常食の調理	
		1ウ 衣服の選択	
		2ウ 衣服の手入れ	
		1,2エ 布を用いた製作	
	1,2オ 住居の基本的な機能と快適で安全な住まい方		

# 家庭科の領域及び内容（改訂）

## （小学校、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領及び特別支援学校高等部学習指導要領）

以下の分類は、現行学習指導要領の学習内容を基に分類したものであり、詳細については今後性精査が必要となる。

	A 家族・家庭生活 （仮称）	B 生活経営・消費生活 （仮称）	C 食生活 （仮称）	D 衣生活 （仮称）	E 住生活 （仮称）
小学校	A(1)自分の成長と家族	A(2)家庭生活と仕事	B(1)食事の役割	B(4)衣服の着用と手入れ	B(6)快適な住まい方
	A(3)家族や地域の人々との関わり	C(1)物や金銭の使い方と買い物	B(2)調理の基礎	B(5)生活を豊かにするための布を用いた製作	
		C(2)環境に配慮した生活	B(3)栄養を考えた食事		
	A(4)家族・家庭生活についての課題と実践				
中学部 ※数字は段階	1,2ア 自分の成長と家族	1,2ア 身近な消費生活	1,2ア 食事の役割	1ウ, 2エ 衣服の着用と手入れ	1エ 快適な住まい方
	1,2イ 家庭生活と役割	1,2イ 環境に配慮した生活	1イ, 2ウ 調理の基礎		2オ 快適で安全な住まい方
	1,2ウ 家庭生活における余暇		2イ 栄養を考えた食事		
	1エ 幼児の生活と家族				
	2エ 家族や地域の人々との関わり				
高等部 ※数字は段階	1,2ア 自分の成長と家族	1,2ア 消費生活	1ア 食事の役割	1ウ 衣服の選択	1,2オ 住居の基本的な機能と快適で安全な住まい方
	1,2イ 家庭生活での役割と地域との関わり	1,2イ 消費者の基本的な権利と責任	1イ 日常食の調理	1,2エ 布を用いた製作	
	1,2ウ 家庭生活における健康管理と余暇		2ア 必要な栄養を満たす食事	2ウ 衣服の手入れ	
	1,2エ 乳幼児や高齢者などの生活		2イ 日常食の調理		

# 表形式による構造化／家庭／並列パターン

領域		A 家族・家庭生活		B 生活経営・消費生活		C 食生活		D 衣生活		E 住生活	
高次の 資質・能力		知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
中学部	1 段階	<b>目標</b> ア 家庭の中の自分の役割に気付き、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 イ 家庭生活に必要な事柄について触れ、課題や解決策に気付き、実践し、学習したことを伝えるなど、日常生活において課題を解決する力の基礎を養う。									
	2 段階	<b>目標</b> ア 家族や自分の役割について理解し、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 イ 家庭生活に必要な事柄について考え、課題を設定し、解決策を考え、実践し、学習したことを振り返り、考えたことを表現するなど、日常生活において課題を解決する力を養う。									
高等部	1 段階	<b>目標</b> ア 家族・家庭の機能について理解し、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 イ 家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。									
	2 段階	<b>目標</b> ア 家族・家庭の機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 イ 家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。									

# 高次の資質・能力の案 / 家庭 / 学部共通一領域別

## A 家族・家庭生活（仮称）

\* 以下の内容は、現行学習指導要領の学習内容であり、詳細については今後精査が必要となる。

・取り扱う内容は、中学部及び高等部を通しておおむね小学校段階の内容であるため、学部共通で設定  
 ・小学校の高次の資質・能力を踏まえ、知的障害特別支援学校の教科の内容に基づいて設定

高次の資質・能力		知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
学部	段階	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
中学部	1段階	ア 自分の成長と家族 自分の成長を振り返りながら、家庭生活の大切さを知ること。 イ 家庭生活と役割 家庭における役割や地域との関わりについて関心をもち、知ること。 ウ 家庭生活における余暇 健康や様々な余暇の過ごし方について知り、実践しようとする事。 エ 幼児の生活と家族 幼児の特徴や過ごし方について知ること。	ア 自分の成長と家族 家族とのやりとりを通して、家族を大切にすることを育み、よりよい関わり方について気付き、それらを他者に伝えること。 イ 家庭生活と役割 家庭生活に必要なことや自分の果たす役割に気付き、それらを他者に伝えること。 ウ 家庭生活における余暇 望ましい生活環境や健康及び様々な余暇の過ごし方について気付き、工夫すること。 エ 幼児の生活と家族 幼児への適切な関わり方について気付き、それらを他者に伝えること。
	2段階	ア 自分の成長と家族 自分の成長を振り返り、家庭生活の大切さを理解すること。 イ 家庭生活と役割 家庭における役割や地域との関わりについて調べて、理解すること。 ウ 家庭生活における余暇 健康管理や余暇の過ごし方について理解し、実践すること。 エ 家族や地域の人々との関わり 地域生活や地域の活動について調べて、理解すること。	ア 自分の成長と家族 家族とのやりとりを通して、家族を大切にすることを育み、よりよい関わり方について考え、表現すること。 イ 家庭生活と役割 家庭生活に必要なことに関して、家族の一員として、自分の果たす役割を考え、表現すること。 ウ 家庭生活における余暇 望ましい生活環境や健康管理及び自分に合った余暇の過ごし方について考え、表現すること。 エ 家族や地域の人々との関わり 家族との触れ合いや地域生活に関心をもち、家族や地域の人々と地域活動への関わりについて気付き、表現すること。
高等部	1段階	ア 自分の成長と家族 自分の成長と家族や家庭生活との関わりが分かり、家庭生活が家族の協力によって営まれていることに気付くこと。 イ 家庭生活での役割と地域との関わり 家庭生活において、地域の人々との協力が大切であることに気付くこと。 ウ 家庭生活における健康管理と余暇 健康管理や余暇の有効な過ごし方について理解し、実践すること。 エ 乳幼児や高齢者などの生活 乳幼児や高齢者などの生活の特徴、乳幼児や高齢者などの関わり方について気付くこと。	ア 自分の成長と家族 家族とのよりよい関わり方について考え、表現すること。 イ 家庭生活での役割と地域との関わり 家族と地域の人々とのよりよい関わり方について考え、表現すること。 ウ 家庭生活における健康管理と余暇 健康管理や余暇の有効な過ごし方について考え、表現すること。 エ 乳幼児や高齢者などの生活 乳幼児や高齢者などのよりよい関わり方について考え、表現すること。
	2段階	ア 自分の成長と家族 自分の成長と家族や家庭生活の関わりが分かり、家庭生活が家族の協力によって営まれていることを理解すること。 イ 家庭生活での役割と地域との関わり 家庭生活において、地域の人々との協力が大切であることを理解すること。 ウ 家庭生活における健康管理と余暇 健康管理や余暇の有効な過ごし方について理解を深め、実践すること。 エ 乳幼児や高齢者などの生活 乳幼児や高齢者などの生活の特徴が分かり、乳幼児や高齢者などの関わり方について理解すること。	ア 自分の成長と家族 家族とのよりよい関わり方について考え、工夫すること。 イ 家庭生活での役割と地域との関わり 家庭と地域の人々とのよりよい関わり方について考え、工夫すること。 ウ 家庭生活における健康管理と余暇 健康管理や余暇の有効な過ごし方について考え、工夫すること。 エ 乳幼児や高齢者などの生活 乳幼児や高齢者などのよりよい関わり方について考え、工夫すること。

## D 衣生活（仮称）

\* 以下の内容は、現行学習指導要領の学習内容であり、詳細については今後精査が必要となる。

・取り扱う内容は、中学部及び高等部を通しておおむね小学校段階の内容であるため、学部共通で設定  
 ・小学校の高次の資質・能力を踏まえ、知的障害特別支援学校の教科の内容に基づいて設定

高次の資質・能力		知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
学部	段階	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
		衣服を手入れしながら着用したり、製作をしたりすることで、自分の衣生活をよりよくできることについて理解する。	自分の衣生活上の課題を見だし、健康で快適なよりよい衣生活に向けて工夫することができる。
中学部	1段階	ウ 衣服の着用と手入れ 場面に応じた日常着の着方や手入れの仕方などについて知り、実践しようとする。	ウ 衣服の着用と手入れ 日常着の着方や手入れの仕方に気付き、工夫すること。
	2段階	エ 衣服の着用と手入れ 日常着の使い分けや手入れの仕方などについて理解し、実践すること。	エ 衣服の着用と手入れ 日常着の快適な着方や手入れの仕方を考え、工夫すること。
高等部	1段階	ウ 衣服の選択 衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解すること。 エ 布を用いた製作 目的に応じた縫い方について考え、工夫すること	ウ 衣服の選択 衣服の選択について考え、工夫すること。 エ 布を用いた製作 目的に応じた縫い方について考え、工夫すること
	2段階	ウ 衣服の手入れ 衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解し、適切にできること。 エ 布を用いた製作 製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解すること。	ウ 衣服の手入れ 衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて考え、工夫すること。 エ 布を用いた製作 布を用いた簡単な物の製作計画を考え、製作を工夫すること。

～目標及び内容の構造化の方向性～

# 外国語活動・外国語

現行の記載

【小学部学習指導要領】

◎ 外国語活動の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語や外国の文化に触れることを通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
外国語を用いた体験的な活動を通して、日本語と外国語の音声の違いなどに気付き、外国語の音声に慣れ親しむようにする。	身近で簡単な事柄について、外国語に触れ、自分の気持ちを伝え合う力の素地を養う。	外国語を通して、外国の文化などに触れながら、言語への関心を高め、進んでコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

◎ 外国語活動・外国語によるコミュニケーションにおける「見方・考え方」

外国語で表現し伝え合うために、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。

改善案（現行ベースのたたき台）

✓ 以下は、現行の記載を基に総則・評価特別部会の方針を当てはめた「たたき台」であり、修正すべき点がないか検討する必要がある。

◎ 外国語活動の目標

外国語によるコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を、【P】聞くこと、話すことの言語活動を通して、次の通り育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
外国語を用いた体験的な活動を通して、言語や文化に興味や関心をもち、外国語の音声に慣れ親しむようにする。	ごく身近な事柄について、外国語に触れ、自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。	外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心をもち、自分なりの方法で自分の考えや気持ちを伝えるとともに、相手を理解しようとする態度を養う。

※ 「学びに向かう力、人間性等」の4要素

- ① 初発の思考や行動を起こす力・好奇心、② 学びの主体的な調整
- ③ 他者との対話や協働、④ 学びを方向付ける人間性

◎ 外国語活動・外国語によるコミュニケーションにおける「見方・考え方」

見方・考え方は校種を超えて共通

外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自分の考え等を発信し、多様な他者との相互理解を図ること

## 💡（外国語WG）資質・能力の構造化等に関連する検討のポイント

### 1. 目標・内容の構造化等のポイントについて

- 英語科は知識及び技能よりも思考力・判断力・表現力等の系統性が明確であり、知識及び技能が全体として思考力・判断力・表現力等の深まりを助けることを明確にするため、「並行」パターンでの表形式化を検討
- 「外国語を使って何ができるようになるか」の段階的な高度化を「思考力・判断力・表現力等」の深まりとして示し、観点別評価も行いやすくするため、領域別目標の要素（聞くこと、読むこと、話すこと【やり取り】、話すこと【発表】、書くこと）を「思考力・判断力・表現力等」の内容に移行
- 高次の資質・能力のうち、「思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮」については、CEFRでの分類（Reception・Production・Interaction）も踏まえ、「理解する・表現する・伝え合う」に分けて記載

### 2. その他の重要論点について

- AI時代に外国語を必修とする「本質的意義」として、「言葉、文化、コミュニケーションへの深い理解を育むこと」と「自分の考えが磨かれて思考が深まる、人間関係が豊かになること」を柱に要素を整理（見方・考え方に反映）
- 高校の英語科目については、英語によるコミュニケーションを中核とする科目趣旨を端的に示すため、5領域を総合的に扱う「英語コミュニケーション」は「英語コミュニケーション（総合）」に、話すことや書くことを中心に扱う「論理・表現」は、発信力の一層の強化を図るため「英語コミュニケーション（発信）」に変更（これらを踏まえた内容構成の変更が生じるため、資質・能力の構造化の素案については英語コミュニケーション（総合）Ⅰ及び英語コミュニケーション（発信）Ⅰのみ示している。）
- コミュニケーションに必要な重要な語彙に繰り返し触れ、様々な文脈や場面で発信に活用できるようにするため、指導すべき語彙数の精選も含めて、基盤語彙リストを整備する方向で検討

## 現状

### 外国語の目標

知識及び技能

思考力・判断力・表現力等

学びに向かう力・人間性等

### 英語の目標（領域別目標）

聞くこと

読むこと

話すこと  
(やり取り)

話すこと  
(発表)

書くこと

### 内容

#### 知識及び技能

音声/符号/語, 連語及び慣用表現/文, 文構造及び文法事項

#### 思考力・判断力・表現力等

情報を整理しながら考えなどを形成し, 英語で表現したり, 伝え合ったりすることに関する事項

#### 言語活動及び言語の働きに関する事項

言語活動(例)

聞くこと

読むこと

話すこと  
(やり取り)

話すこと  
(発表)

書くこと

言語の使用場面(例)

言語の働き(例)

### 内容の取扱い

言語材料の段階的な指導、指導内容や指導方法の工夫 など

※改善イメージにおいても引き続き記載

## 改善イメージ

### 外国語の目標

知識及び技能

思考力・判断力・表現力等

学びに向かう力・人間性等

### 英語の目標

英語の目標は3つの柱で整理

知識及び技能

思考力・判断力・表現力等

学びに向かう力・人間性等

### 内容

CEFRの分類も踏まえて3つに整理

#### 思考力・判断力・表現力等

思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮  
(理解する) (表現する) (伝え合う)

聞くこと

読むこと

話すこと  
(やり取り)

話すこと  
(発表)

書くこと

「並行」パターンで示す

#### 知識及び技能

知識及び技能に関する統合的な理解

言語の働きを「知・技」に位置付ける

音声/符号/語, 連語及び慣用表現/文, 文構造及び文法事項, 言語の働き(例) など

※技能は5領域と関連付けて示す

### 内容の取扱い

言語活動(例)

「内容」は資質・能力に限定し、「言語活動の例」と「言語の使用場面の例」は内容の取扱いへ

聞くこと

読むこと

話すこと  
(やり取り)

話すこと  
(発表)

書くこと

言語の使用場面(例)

領域別目標の要素を「内容」に位置付け、段階的な高度化と資質・能力の深まりを示す

# 外国語活動・外国語科の構成等のイメージ（中学部の例）

（特別支援学校小学部・中学部学習指導要領及び特別支援学校高等部学習指導要領）

## 現状（外国語科）

### 内容

#### 知識及び技能

英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ事項  
日本と外国の言語や文化に慣れ親しむ事項

#### 思考力・判断力・表現力等

言語活動（例）

聞くこと    話すこと（発表）    話すこと（やり取り）    書くこと    読むこと

言語の使用場面（例）  
言語の働き（例）

### 内容の取扱い

言語材料の段階的な指導など

※改善イメージにおいても引き続き記載

## 改善イメージ

### 内容

#### 思考力・判断力・表現力等

思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮

（理解する）    （表現する）    （伝え合う）

聞くこと

話すこと（発表）

話すこと（やり取り）

書くこと

読むこと

#### 知識及び技能

知識及び技能に関する統合的な理解

英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ事項  
日本と外国の言語や文化に慣れ親しむ事項  
言語の働き（例） など

### 内容の取扱い

言語活動（例）

聞くこと

話すこと（発表）

話すこと（やり取り）

書くこと

読むこと

言語の使用場面（例）

# 内容の構造化の案 / 外国語 / 並行パターン

- 英語科は思考力・判断力・表現力等の系統性が明確であり、知識及び技能が全体として思考力・判断力等の深まりを助けることを明確にするとともに、小・中・高等学校との連続性を勘案し、「並行パターン」としてはどうか。
- 内容の示し方については、「外国語を通じて何ができるようになるか」をより明確になるような記載にしてはどうか。

## 【中学部の例】

中学部	外国語科	高次の資質・能力		領域		内容項目例	
		総合的な発揮					
思考力、判断力、表現力等	...	聞くこと	話題	規定省略			
			条件	規定省略			
			できること	規定省略			
			話すこと [発表]	話題	規定省略		
				条件	規定省略		
				できること	規定省略		
			話すこと [やり取り]	話題	規定省略		
				条件	規定省略		
				できること	規定省略		
		書くこと	話題	規定省略			
			条件	規定省略			
			できること	規定省略			
		読むこと	話題	規定省略			
			条件	規定省略			
			できること	規定省略			
		知識及び技能	統合的な理解	領域		内容項目例	
				...	英語の特徴等に関する事項	規定省略	
					【P】言語の働きに関する事項 (pragmatic competence)	規定省略	
					文化	規定省略	

# 高次の資質・能力の案 / 外国語 / 学部別 – 領域共通

- 外国語によるコミュニケーションの基礎となる資質・能力を育むことに重点が置かれていること及び小、中、高等学校との連続性を踏まえ、「思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮」については、理解する・表現する・伝え合うに分けて記載してはどうか。
- 高次の資質・能力については、外国語活動（小学部）と外国語科（中・高等部）に分けて示してはどうか。

## 【小学部の例】

		高次の資質・能力		小学部
小学部	外国語活動	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	内容項目
			ごく身近で話題について、 ・ 情報などを聞き、音声と事物を結び付けることに慣れ親しむことができる。【理解する】 ・ 自分の考えや気持ちなどを、音声や身振りなどの手掛かりを使って伝えることに慣れ親しむことができる。【表現する】 ・ 自分の考えや気持ちなどを、音声や身振りなどの手掛かりを使って他者と共に伝え合うことに慣れ親しむことができる【伝え合う】	規定省略
		知識及び技能	統合的な理解	内容項目
			英語の音声やリズムに十分に慣れ親しむことで、日本語と外国語の音声の違い等に気付くとともに、言語や文化の違いを体験的に理解している。	規定省略

## 【中・高等部の例】

		高次の資質・能力		中・高等部
中・高等部	外国語科	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	内容項目
			身近で簡単な事柄について、 ・ 情報などを聞き、身振りや写真などを手掛かりにして、音声や文字から必要な情報を聞き取ったり、読み取ったりすることができる。【理解する】 ・ 自分の考えや気持ちなどを、十分に慣れ親しんだ語句や基本的な表現を使って、話したり、書いたりするなどして伝えることができる。【表現する】 ・ 相手の働きかけを踏まえ、十分に慣れ親しんだ語句や基本的な表現を選んで伝え合うことができる。【伝え合う】	規定省略
		知識及び技能	統合的な理解	内容項目
			英語の音声や文字の働きを知り、目的や場面に応じて簡単な語句や表現を選んで、相手に伝えるとともに、言語や文化の違いを体験的に理解している。	規定省略